

# 英語科 第3学年 Lesson7 Goal Activity どんな工夫をすれば伝わりやすい？

英語科 教諭 横山 麗紅

## 1 単元名(教材名)

今まで習ったことを生かしながら自分の考えを表したプレゼンテーションを作ろう。

(Lesson7 Goal Activity どんな工夫をすれば伝わりやすい 三省堂『NEW CROWN』より)

## 2 単元の目標

- (1) 日常的な話題について、事実を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようになる。 [知識及び技能]
- (2) 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 [学びに向かう力、人間性等]

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的な話題について、事実を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができるようになる。 ②仮定法過去<I wish…>などを活用して、わかば商店街のアイデア募集の文の内容について読み取る技能を身に付けている。	①日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現している。 ②問題を解決するために問題点と状況の具体について理解し、話し合う、意見を伝える表現を使い文の考えを簡単な語句や文を用いて述べ合っている。	①日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現しようとしている。 ②問題を解決するために、問題点と状況の具体について書かれた募集要項を読み、読んだことに基づき引用するなどして、自分の考えを簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

## 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】 商店街が抱える問題の解決策を考え、英語で表現できる。

考えさせる問い

商店街が抱えている問題について、どのような工夫をすれば問題を解決できるかを考え、英語で表現しよう。—ナッジ理論を使って解決しよう—

話し合いを通して

「考えさせる問い」  
に使う知識を  
「教える」

- ①教科書本文の内容理解
- ②商店街の困っていることについての内容理解
- ③ナッジ理論についての復習
- ④話し合いをするとき、意見を言うときの英語表現の確認(既習事項)

考える

個 商店街が抱えている問題について、問題解決のための工夫を考える。

広げる

集団 同じ問題を設定した班で、問題解決のための工夫について意見を共有する。

深める

個 意見交換をした内容をもとに、問題解決のための工夫について考えを深め、まとめる。

### 5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全6時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点
1	<p><b>【めあて】</b>商店街が困っていること、すでに行っている対応策について読み取り、簡単な語句や文を使って概要をまとめることができる。</p> <p><b>【既習事項の確認】</b>  ○仮定法の訳し方について確認する。  ○教科書本文中で用いられている仮定法の場所を指摘し、訳す。  ○ナッツ理論について教科書の例を参考に復習し、確認する。  ○意見を伝えるときに使う用語を Word bank を用いて確認する。</p> <p><b>【教わる・知る】</b>  ○募集要項のポスターを見て、どんな内容が書かれているのか内容を読み取り、確認する。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b>  ○商店街が困っていること、その問題を解決するためにすでに行われていることについて、教科書本文を読み、簡単な語句や文を使って概要をまとめる。</p> <p><b>【集団】</b>  ○4人グループで記述内容を共有する。  ○参考にできる語句や文、まとめ方についてメモをする。</p> <p><b>【個】</b>  ○自分で書いた記述内容を見返し、話し合いを通して参考にしたと思った語句や文、まとめ方などを使いながら、最初にまとめた自分の概要を推敲する。</p>	<p>[知識・技能①](ワークシート)  ・日常的な話題について、事実を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができる。</p> <p>[知識・技能②](観察)  ・日常的な話題について、事実を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができるようにする。  ・仮定法過去 &lt;I wish...&gt;などを活用して、わかば商店街のアイデア募集の文の内容について読み取る技能を身に付けている。</p>
予習	<p>・Lesson7 において学んだナッツ理論を活用し、実際に問題を解決した例について調べ、問題とその解決のための工夫についてまとめる。</p>	

**【めあて】**商店街の問題を解決するための工夫を考え、簡単な語句や文を用いて自分の考えを表すことができる。

**【既習事項の確認】**

○話し合い、意見を言うときの表現について、前に習った文や語句を思い出し、発音したり使い方を確認したりする。

**【教える・知る】**

**【モデルの提示】**

○商店街が抱える問題(ごみ問題)を解決する工夫について話し合う動画を見て、話し合いに用いる語句・文やアイデアを伝えるときの語句や文、表現方法について確認する。

**【理解の確認(アウトプット)】**

○ペアで動画に登場した人物からどんなアイデアが出たか、アイデアを伝えるときに使っていた語句や文、表現方法、話し合いを進める上での司会が使っていた語句や文について確認する。  
○2～3名、確認したことを全体で発表する。

**【多様な考えを生む問い】**商店街が抱えている問題について、どのような工夫をすれば問題を解決できるだろうか。—ナッジ理論を使って解決しよう—

**【考える・広げる・深める】**

○次の問題の中から、4人班で1つ選び、解決策を考える。

- ①ごみのポイ捨て
- ②自転車の路上駐車
- ③住民のプライバシーを侵害する無許可での家屋撮影

**【個】**

○4人班で選んだ問題について、どのような解決策や工夫があるかについて考え、ワークシートに記述する。

[思考力、判断力、表現力等①](ワークシート)

・社会的な話題について、英語を読んで得た情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして自分の考え、気持ちを表現できている。

※話し合いの中で自ら問題を選ばせることで多様なアイデアを生むきっかけを作る。

※ナッジ理論に基づき、強制されずに楽しみながら人々がルールを守りたくなるようなアイデアにするよう伝える。

※どうしてもアイデアが出ない生徒にはナッジ理論について調べさせたり、教師からヒントを提示したりする。

<p>自主学習</p>	<p>○C 評価の生徒の「分からない」程度・内容の確認と支援          ○授業中にワークシートの記入が終わらなかった生徒の支援          ○もっと調べたい生徒への支援</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自習室で対応</p>
<p>3</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">【めあて】問題解決のためのアイデアや工夫について考えたことを、簡単な語句や文を使って伝え合うことができる。</p> <p><b>【既習事項の確認】</b>          ○前時に動画で確認したアイデアを伝えるときに使っていた語句や文、表現方法、話し合いを進める上での司会が使っていた語句や文について確認する。          ○司会役は、”Shall we start? Does anyone have any ideas?”の一言から話し合いを始め、お互いのアイデアを英語で共有することを確認する。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b>  <b>【集団】</b>          ○個人で考えた解決策やアイデアを、学習した語句や文、表現方法を使って4人班で伝え合う。          ○班の代表が、面白かったアイデアや工夫について、全体に英語で発表する。</p> <p><b>【個】</b>          ○話し合いや発表を基に、自分の考えにはなかったアイデアや深められた考えなど、参考にしたことを生かして、問題解決策をまとめ直す。</p>	<p>[知識・技能②] (観察・ワークシート)          ・仮定法過去 &lt;I wish…&gt;などを活用して、わかば商店街のアイデア募集の文の内容について読み取る技能を身に付けている。          ※仮定法を使って文章を書ける生徒には挑戦するよう指示する。          ※話し合いでは、できる限り英語を使う。難しい生徒については支援する。</p> <p>[思考力、判断力、表現力等②] (観察・ワークシート)          ・問題の解決策について、話し合う、意見を伝える際の表現や簡単な語句・文を用いて伝えることができている。</p>
<p>4</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">【めあて】問題解決のための工夫について、簡単な語句や表現を使って自分の考えをスライドにまとめることができる。</p> <p><b>【教わる・知る】</b>          ○スライドの見本を通してスライドの作り方について理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">Foot print stickers ! !</p> <p style="text-align: center;">Trash can</p> </div>	<p>※イラストや写真を使って、伝わりやすくなる工夫をするように指示する。スライドは1枚で作成するよう指示する。</p>

4	<p><b>【既習事項の確認】</b></p> <p>○話し合いの動画で紹介された「To solve this problem, I think we should」という表現が使えることを確認する。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○自分が担当した問題とその解決策について、考えをまとめたスライドを作成する。</p> <p>○習った語句や文などを使って、4行以上になるよう、発表原稿を作成し、提出する。</p>	<p>[知識・技能①](ワークシート・観察)</p> <p>・日常的な話題について、事実を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができるようにする。</p> <p>※発表原稿を書くのが難しい生徒に対しては、型を提示して英文を書く支援をする。</p>
自主学習	<p>○C 評価の生徒の「分からない」程度・内容の確認と支援</p> <p>○授業中にスライドの作成が終わらなかった生徒の支援</p> <p>○もっと調べたい生徒への支援</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>自習室で対応</b> </div>
5・6	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】問題解決のための工夫について、簡単な語句や表現を使って自分の考えを表現することができる。</b></p> </div> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○ペアでスライドを発表し合い、良いところ、改善すべきところを伝え合う。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○アドバイスを基に、修正し、次の条件がクリアできるよう、発表準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表原稿暗記</li> <li>・ジェスチャーを入れ、強調する部分の読み方の工夫をする。</li> </ul> <p><b>【集団】</b></p> <p>○同じ問題を担当した人たちの中で発表し合い、用いた表現や伝え方について良いところ、改善すべきところを伝え合う。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○アドバイスや他の人の発表の良かった点を取り入れ、スライドの調整を行い、発表の練習をする。</p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○違う問題を担当した人同士で班になりスライドの発表をする。</p> <p>○発表した生徒に対し、質問や確認をする。</p> <p>○発表の良かったところ、改善すべきところについて付箋に記入し、発表者に渡す。</p>	<p>※提案されたアイデアは課題解決策になっているかどうか、話している英文の意味が伝わるかどうかについて、アドバイスし合えるよう説明しておく。</p> <p>※発音やジェスチャー、強調する部分の確認が難しい生徒に対しては個別に支援する。</p> <p>※同じ問題を解決する班の視点で発表者の話している英文の意味が伝わっているか、楽しく取り組むことのできるアイデアとなっているかについてアドバイスし合うよう伝える。</p> <p>[思考力、判断力、表現力等①] (観察)</p> <p>・社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、事実や自分の考え、気持ちなどを話して表現できている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] (観察)</p> <p>・社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報</p>

5 6		や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現しようとしている。
--------	--	---

## 6 成果と課題

- 【成果】①【教わる・知る】の時間に動画や画像を見せて概要を理解させたこと、【考えさせる】の時間で、考えるための視点を提示したことが、多様な「個」の考えにつながり、「集団」での広がりにもつながった。
- ②【活動】同じ問題を解決するための集団で活動を行ったことで、同じ問題でも異なるアイデアや表現の仕方を共有することができた。また、グループ編制のときに、英語が得意な生徒と苦手意識のある生徒を同じ班にすることによって、自分の英文を推敲するときに教えてもらいながら完成させることができている生徒が多かった。
- ③【教材】身近に起こりうる問題を扱ったこと、人々を強制させず自発的に問題が解決できるような、楽しいアイデアを使った工夫を考えるという条件があったことで、生徒の考えが多種多様に広がった。
- 【課題】①【発表原稿の作成】説明する際に今まで使用したことのない語彙や表現を使うことで英文が難解になり、伝わりづらい英文を作成し発表した生徒がいた。
- ②【活動】Web QU をもとにした座席配置で活動を試みたが、ソーシャルスキルを中心に考えた配置にしたため、英語の得意不得意を考慮に入れる座席配置にする必要があった。

### 授業を終えて 【ホンネの話】



Lesson7 に登場する「ナッツ理論」について生徒の関心が高かったため、このテーマで授業を展開したら「個→集団→個」の活動を活発にすることができるだろうと見据え、研究授業として実践しました。実際の題材設定は、「注意事項の掲示のアイデアを考える」というものでしたが、「問題を解決するための工夫を考える」と変更したことで、生徒が楽しみながら様々なアイデアを出すことができました。アイデアを出すような実践において「個→集団→個」の流れが効果的であることが実感できました。他者のアドバイスを受け、情報を取捨選択しながら生徒がアイデアをブラッシュアップする姿が見られ、[考える・広げる・深める]とはどのような姿なのかを確認することができました。

今回は、Goal Activity に全6時間を使いましたが、他の単元でも毎回実践できるかと言われるとなかなか難しい部分もあります。スライドの修正については、ペアで発表し合う、4人班で修正し合うなどいくつもの段階を経ましたが、一度だけでもよかったかもしれません。そのような時間調整や計画が必要だったと思います。また、アイデアは出せても英語で「表記する」、「発表する」、ということに関して、十分に力を発揮できなかった生徒が多かったことも事実です。教師が添削を入れながら何とか発表までたどり着けたというのが実際です。個人の習熟度の差が発表に表れてしまう部分がありました。話し合いの方法や英語で表記するための工夫、「英語で」アイデアを深めていける授業の設定など、まだまだ考えていかなければならないことがあります。今回の単元では仮定法の I wish の文法事項を使って本文を読むというものでしたが、それらを使って文章を書くところまで授業を展開させることができると、生徒の仮定法の I wish の定着につなげることができたかもしれません。

本校の校訓でもある「自己実現・自己決定」の根幹を成す、「自分の考えをもつ」までの過程は、今後の人生においても活かすことのできるスキルだと感じています。まだまだ乗り越えなければならない課題はありますが、英語科においても授業内で実現できるということが分かり、授業者として実践できたことを嬉しく思いました。

①仮定法を使ったスライド例:

wish ではないのですが、仮定法学習後の単元であったため、取り入れることにしました。

thank you trash cans

To solve this problem, I think we should make trash cans that say thank you.

If people threw away trash into the can, they would feel good. We can keep the clean cities.

②ワークシート記入例

Lesson 7 教材書 pp.96-97 Class: \_\_\_\_\_

**Goal Activity どんな工夫をすれば伝わりやすい?②**

**Watch** 花たちが話し合っている様子を見よう。  
花たちが、話し合うときにどんな工夫をしているか、ペアやグループで話し合おう。

Watch の動画をもう一度見て、花たちの考えた工夫を整理しよう。

**問題** ① Litter (ゴミが上手くゴミい人もない)

**工夫**  
① パステル色のゴミ箱 ② 一人々々をしたらゴミが回りに落ちる  
③ どちらが好む? かわいいゴミ箱

**Talk** どうしたら問題を解決できるのか、どんな工夫をすればよいか話し合おう。

**【個】与えられた問題(①~③について)を解決するアイデアを考え、できるだけ多く書き込もう。**

**問題** ゴミ

**工夫**  
・ゴミを入れたら音がなる。今 00kg! 入れたら表示される。ピリリとか、ごろがよけたらクラッカーがなるみたいな音がするゴミ箱  
・商店街でも僕らの家の横のゴミ箱  
・観光で買った買物でゴミを捨てるゴミ箱

**【個】問題解決のための工夫を1つ選び、工夫の内容をまとめよう。**

**問題** ゴミ

**工夫**  
ゴミを入れたら音がなり 50kg 入れたらクラッカーみたいな音がなる  
When people put trash in it, it makes a sound and displays the amount.  
Also when it weighs 50 kg, it makes a cracker sound.  
例) ゴミ箱の前には足跡を置いて、ゴミ箱に行きやすくなるように工夫する。ゴミ箱の前には足跡を置いて、ゴミ箱に行きやすくなるように工夫する。

**【個】工夫の内容を説明とともにスライド1枚にまとめよう。**

**例**

**Goal Activity** どんな工夫をすれば伝わりやすい?②

Watch 花たちが話し合っている様子を見よう。  
 Watch の動画をもう一度見て、花たちの考えた工夫を整理しよう。

問題 **QRcode** **QRコード**  
 工夫 **QRコードの工夫** → 番号がわかる → 伝わりやすい。  
**QRcode** → QRコード  
 → 番号がわかる → 伝わりやすい。

Talk どうしたら問題を解決できるのか、どんな工夫をすればよいか話し合おう。

【目標】 考えられた問題（1～3について）を解決するアイデアを考え、できるだけ多く書き出そう。

問題 **@ Bike**  
 工夫 **足踏車と自転車** → 足踏車と自転車  
 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車

【目標】 同じ問題別に分かれ、お互いのアイデアを共有し、問題解決のための工夫を考えよう。

問題 **@ bike**  
 工夫 **足踏車と自転車** → 足踏車と自転車  
 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車

**word bank** 意見を言うときの表現、話し合いをするときの表現を確認しよう!

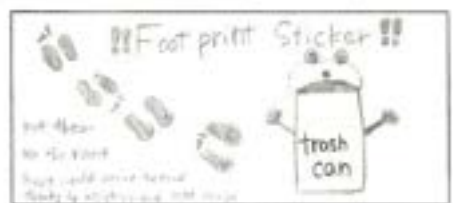
I think we should ...	私たちは〜すべきだと思います。
I have an idea.	考えがあります。
That's a good idea.	それはよい考えです。
That's not a bad idea, but ...	それは悪い考えではありませんが、〜
I agree with you.	あなたに賛成します。
You have a point, but ...	たしかにその点ですが、〜
... shows [says] ...	〜は〜と示しています [言っています]
according to ...	〜によれば

- ① **リアクションしよう!**  
 ほかのアイデアを褒めたり、意見を言ったりしたら、あなたが思ったことや感じたことを伝えよう。  
 ② **みんなで積極的に話し合おう!**  
 ・参加者全員が積極的に発言して、話し合いを積極的に進めよう。  
 ・意見や感想を述べたり、質問を投げかけたりしよう。ほかの参加者に感情や質問があるかたずけてもいいね。  
 ・アイデアがまとまってきたら、具体的な改善ができるように整理しよう!

【目標】 問題解決のための工夫を1つ選び、工夫の内容をまとめるよう。

問題 **@ bike**  
 工夫 **足踏車と自転車** → 足踏車と自転車  
 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車  
 → 足踏車と自転車 → 足踏車と自転車

【目標】 工夫の内容を説明とともにスライド1枚にまとめるよう。



# 国語科 第1学年 「言葉がつなぐ世界遺産」

## 1 単元名(教材名)

国語科 教諭 萩原 啓

文章の構成が変わると読後の印象はどう変わるのか、自分の考えをもつ

(『言葉がつなぐ世界遺産』教育出版『中学国語1』より)

## 2 単元の目標

- (1) 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能]
- (2) 事実と意見との関係などについて叙述を基に捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	①「読むこと」において、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉えている。 ②「読むこと」において、文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考えている。	①粘り強く構成や展開の効果などについて考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合い、自分の考えをもとうとしている。

## 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】事例の順序や展開の効果について、自分の考えをもつ。

考えさせる問い

①記録の蓄積と②技術の伝承の事例を入れ替えたなら、どのような印象の違いが生まれるだろうか。

話し合いを通して

「考えさせる問い」に使う知識を「教える」

- ①本文の内容(序論本論結論ごと)について
- ②事例の順序という視点
- ③本文で用いられる語彙の意味

考える

個 事例①「修復記録の蓄積」と事例②「世代を超えた技術の伝承」を入れ替えると読者にどんな印象を与えるだろうか？

広げる

集団 個人で考えたことを4人班で共有する。  
班内で新しく得た情報・知識は赤で書く。

深める

個 事例入れ替えによる印象の変化を根拠・理由も交えて400字の作文にまとめる。

5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全5時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点等
予習	○教師が用意した語彙の意味を調べ、プリントに記入する。	※プリントは1時間目に入る前に回収し、間違いが多かったところなどを確認しておく。
1・2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】段落相互の関係を考えながら、大きな段落ごとに内容を理解する。</b></p> </div> <p><b>【教わる・知る】</b>            ○教師による範読を聞き、文章を通読する。            ○感想や疑問をオクリンクプラスに投稿する。                →投稿した内容を全員で確認する。            ○教師による説明を聞き、語彙の確認をする。            ○形式段落ごとにどのようなことが書いてあるか、教師のまとめを聞きながら、教科書の本文に記入する。            ○まとめごとに区切る方法を知る。</p> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b>  <b>【個】</b>            ○段落同士の関係から、意味段落のまとめを4つ作り、それぞれの段落に小見出しをつける。  <b>【ペア】</b>            ○個人で付けた小見出しをペアで確認する。</p> <p><b>【個】</b>            ○意味段落のまとめごとに要約をし、プリントに記入する。</p>	<p>[知識・技能①](ワークシート)            ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。            ※ここでとった感想や疑問を使って、生徒の理解度を確認する。            ※オクリンクの投稿を紹介し、今回の授業展開に関する疑問などに触れる。            →確認に時間がかかる場合は、次の授業で情報共有をする。</p>
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】書かれている事実が書き手の意見とどのような関係にあるのか、またその効果について理解する。</b></p> </div> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b>            ○ペアで意味段落ごとにどのような内容だったかを確認し合う。</p> <p><b>【教わる・知る】</b>            ○筆者の意見が書かれている部分について確認し、教科書に線を引く。            ○どのような事例を挙げて意見を述べているか、教師の整理を聞く。            ○教科書の事例の説明を読み、事例を書く目的があることを知る。</p>	<p>[知識・技能①](ノート)            ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p>

3	<p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <p>○2つの事例が取り上げたことには、どのような特徴があるか。事例同士を比較して考えたことをノートに記入する。</p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○4人班になり、個人で考えたことを共有する。</p> <p>○班の代表がクラス全体で話し合った内容を発表する。</p> <p>○教師のまとめを聞く。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○最初に考えた時点では気付かなかったこと、考えが深まったこと、新たに発見できたことなどをノートに赤ペンで記入する。</p>	<p>[思考・判断・表現](ノート)</p> <p>・「読むこと」において、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉えている。(C(1)ア)</p>
自主学習	<p>○C 評価の生徒の「分からない」程度・内容の確認と支援</p> <p>○授業内で文章の内容が理解できていない生徒への支援</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自習室で対応</div>
4・5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】構成や展開の効果について自分の考えをもつ。</b></p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【多様な考えを生む問い】①記録の蓄積と②技術の伝承の事例を入れ替えたら、どのような印象の違いが生まれるだろうか。</b></p> </div> <p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○事例を入れ替えた文章について、教師の説明を聞く。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <p>○本文と事例の順序を入れ替えた文章とを読み比べ、受けた印象やその理由を踏まえて、元の文章の事例の順序の効果について自分の考えをワークシートに書く。</p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○自分の考えを4人班で共有する。</p> <p>○代表者が全体で発表を行う。</p> <p>○教師のまとめを聞く。</p> <p>○話し合いや発表を通して参考になったことは赤ペンでワークシートに記入する。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○話し合い前の自分の考えと比較しながら、集団での活動を通して深まったことや新たに気付いたことなどを基に、考えたことをワークシートに書く。</p> <p>○本文と、事例の順序を入れ替えた文章とがそれぞれ読者に与える印象とその効果について、400字の文章に書く。</p>	<p>[思考・判断・表現①](ワークシート)</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①](ワークシート・観察)</p> <p>・粘り強く構成や展開の効果などについて考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合い、自分の考えをもとうとしている。</p>

## 6 成果と課題

【成果】①事例の順序を入れ替えることで、段落間のつながりの違和感や、読後感の変化に気付く生徒が多かった。

②事例が取り上げていること(第3時)という前時の内容を踏まえて、内容と構成等の表現を組み合わせて考えることができていた。

【課題】①本文の順序がどんな効果をもっているかについて述べさせるように焦点化すれば、話し合いや発表内容の整理がしやすかった。

②各活動に時間的なメリハリを付ける必要がある。

### 授業を終えて 【ホネの話】

多様な考えが許容される問いを投げかけるまでに、文章の内容を理解しているかの確認を何度も行いました。説明するだけでは足りなかったため、ペアで内容を説明し合う等、細かなアウトプットをさせましたが、効果的だったように思います。また、文章を意味段落ごとに切り分ける学習等は簡単な文章で練習をさせることもしました。今回練習したものについては AI が作成した簡単な文章に少し手を加えて作成しました。ミニレクスのような形で一度触れておく活動がスムーズになるように思います。



今回の授業は事例の順序を入れ替えることで読者にどんな印象を与えることができるのかという点を取り上げました。これまでも授業の中で順序には意味があることには触れており、最初は小学校教材『おおきなかぶ』の人物の登場順を使いました。最初がおじいさん、最後がねずみという順序を考えると、教訓的な読み取りが生まれます。もちろん、文学的文章と説明的文章という違いはありますので、既習教材を取り扱う際は留意した方が良いでしょう。しかし中学校で文章が難しくなってくると、内容理解に時間がかかってしまうため、考えさせたい内容にたどりつくまでが大変です。生徒への負担が大きいと学習活動への参加のハードルを高くなります。比較的簡単かつ慣れ親しまれている既習教材を使って指導事項に触れられれば、その参加のハードルが下げられるのではないかと思います。

## 7 生徒のワークシートへの書き込み・作文の紹介

・順番(時代)が変わると印象に残る内容が変わる。

・過去から未来へが現代から過去へという印象になる。

①読んだあと、どんな印象をもったか？  
(心に残った内容、納得感、違和感、読みやすさ、読後感)

②書き手 X 先生

技術者や受ける側が「思い」から「記録」の印象が強くなる。

伝えない事柄が伝わっているように「違和感」。

何を伝える文章なのかという。

記録 ↓ コレまで

伝承 ↓ コレから

「違和感」

消える

消える ↓ コレ以降

死と生が逆だと時代が変わる

死 ↓ 牛

文章として変に答える。物語の順番を逆にする。

流れが変わる

印象が変わる

後の方が印象が強い

③意見交換後、考えが深まったと、新たに気付いたと、考え直したと

問いに対する答えが変わる

順番(時代)が変わると印象に残る内容が変わる。

過去から未来へが現代から過去へという印象になる。



内容( )に文章を区切る練習問題

一年 組 番 氏名 ( )

☆内容が切り替わるところにタテ線を書き入れて区切りましょう。  
①～⑧は段落番号です。

- ① ぼくは、四季の中で特に好きな季節が二つあります。
- ② 一つ目は、春です。春になると、桜が咲いて町がピンク色に染まります。ぼかぼかとした陽光の中で、友だちと公園を散歩するのが楽しいです。
- ③ 春には、新しい学年が始まり、クラス替えがあつて、どんな友だちと同じクラスになるのか、毎年ドキドキします。新しい先生との出会いも、春の楽しみの一つです。
- ④ また、春は화가たくさん咲くので、家族でお花見に行くのが恒例です。お弁当を持って行って、みんなでシートを広げて食べる時間がとても幸せです。
- ⑤ 二つ目は、夏です。夏は海やプールに行けるので、思いっきり泳げます。アイスクリューもおおいしく感じられて、毎日がわくわくします。
- ⑥ 夏休みには、家族で旅行に行くことが多いです。去年は山にキャンプに行って、夜に星を見ながら寝たのがとても印象に残っています。虫の声や川の音が心地よくて、自然の中で過ごす時間が大好きです。
- ⑦ それから、夏祭りも楽しみの一つです。浴衣を着て、友だちと屋台をまわったり、花火を見たりするのが毎年の楽しみです。夜空に広がる花火を見ると、「ああ、夏だなあ」と感じます。
- ⑧ このように、ぼくは春、夏の二つの季節が好きです。それぞれに楽しいことがあつて、どれも大切な思い出があります。

区切るときは

- ①序論 本論 結論 それぞれに書かれることを思い出して活用する。
- ②ナンバリング (第一に、第二に…、まず、次に、最後に…等) で区切る。
- ③段落の最初にある接続の言葉や指示語の知識を使って段落間の関係を読み取り、区切るか判断する。

① 二つ目のまとめ(序論)(役割)話題・問いかけ

日光が世界遺産に登録された。登録するための調査でイコモスの専門家が保存・修復方法に驚いた。どんな [ ] なのか?

② 二つ目のまとめ(本論①)(役割)事例①

[ ] に驚いた! 見取り図という記録が数千枚も保存されている。見取り図には [ ] が書かれていて、描き方もわかる。

③ 三つ目のまとめ(本論②)(役割)事例②

[ ] に驚いた! 師匠から弟子へ、 [ ] で、三百年以上も技術を伝えてきた。

もう一つ、インタビューを通して、昔の人たちの [ ] を背負っているという思いを感じ取ることができた。技術者たちの思いの強さを感じた。

④ 四つ目のまとめ(結論)(役割)まとめ

この思いを胸に、事例①、事例②が行われてきたのだ。

# 社会科 第2学年 「近畿地方」

## 1 単元名(教材名)

社会科 主任教諭 田代 憲一

「近畿地方」(帝国書院『社会科 中学生の歴史』)

## 2 単元の目標

- (1) 地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全及び、関連するほかの事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色を理解する。 [知識及び技能]
- (2) 自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みを、人口の分布や住民の生活及び産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現する。 [思考力、判断力、表現力]
- (3) 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全及び、関連するほかの事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色を理解している。	①自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みを、人口の分布や住民の生活及び産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。	①近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとしている。

## 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】環境保全の取組を活かしながら、京都府をより発展させるプランを提案できる。

考えさせる  
問い

環境保全の取組を活かしながら、どのように京都府を  
発展させることができるのか

ジグソー学習を  
通して

「考えさせる問い」  
に使う知識を  
「教える」

①近畿地方の基礎知識について

予習→教科書を使って調べさせ、ワークシートに記入させる。

授業→予習の答え合わせと補足説明を行う。

②近畿地方や京都府の地理的特色について

ジグソー学習で、4つの視点(①生活・農業②工業③観光④林業・漁業)から近畿地方や京都府の地理的特色を調べたり、発表し合ったりして、理解を深めさせる。

考える

個 教える段階で学んだ京都府の地理的特色を踏まえて、各自が第1案のプランを考える。

広げる

集団 ワールドカフェで多くの考えに触れることで、新たな気づきやアイデアを得る。

深める

個 第1案を再検討して、「京都府をより発展させるプラン」を完成させる。

○本単元で生徒に考えさせる問いについて

「環境保全の取組を活かしながら、どのように京都府を発展させることができるのか」という問いは、多様な視点を活用して考えることができるものである。問いの地域を「京都府」にしたのは、「生活(琵琶湖・淀川の水域)」「農業」「工業」「観光」「林業」「漁業」のそれぞれの視点で環境保全の取組がみられる地域だからである。多様な視点から考えられる問いだからこそ、「個」ではじめの意見(第一案)を考え、「集団」での話し合いや発表を通じて自分とは違う考えを知ることで見識が広がり、「個」の考えが深まって最後の意見(最終案)をまとめることができる。

5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全7時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点等																								
予習	<p>○近畿地方について、教科書を参考にして基礎用語をまとめたワークシートに取り組む。</p> <div data-bbox="236 757 890 1308"> <p>近畿地方 事前学習プリント</p> <p>2年 _____ 組 _____ 氏名 _____</p> <p>教科書を使って、近畿地方の事前学習(予習)に取り組みましょう。</p> <p>教科書p.206~207 1 近畿地方の自然環境</p> <p>〔近畿地方の都道府県名と都道府県庁所在地を答えなさい〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>都道府県名</th> <th>都道府県庁所在地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A</td><td></td><td>市</td></tr> <tr><td>B</td><td></td><td>市</td></tr> <tr><td>C</td><td></td><td>市</td></tr> <tr><td>D</td><td></td><td>市</td></tr> <tr><td>E</td><td></td><td>市</td></tr> <tr><td>F</td><td></td><td>市</td></tr> <tr><td>G</td><td></td><td>市</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="236 1323 890 1921"> <p>教科書p.214~215 5 環境に配慮した林業と漁業</p> <p>①国や自治体(県や市)が、未経験者が林業の知識や技能が習得できるように支援する制度を何とよめるのか。</p> <p>制度</p> <p>②森林には、二酸化炭素を吸収して気候変動抑制があるのか。</p> <p>③企業が森林を借りて植林などの作業に社員が参加したり、地元の林業従事者との交流を深めたりする取り組みを何とよめるのか。</p> <p>活動</p> <p>④近畿地方の事前学習(予習)をして、もっと知りたいと思ったこと、疑問に思ったことを疑問文の形で書きましょう。(例:なぜ? どのように? など)</p> </div>	記号	都道府県名	都道府県庁所在地	A		市	B		市	C		市	D		市	E		市	F		市	G		市	<p>・ワークシートに取り組んでいるか、用語を正確に記述できているかを把握する。</p> <p>・事前学習で考えさせた「もっと知りたいこと、疑問に思うこと」を分類し、生徒が学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>※ワークシートの最後に次の2点を記載。</p> <p>①もっと知りたいと思ったことや疑問に思ったことを疑問文で書かせる。 →生徒の疑問(疑問文)を集約して提示することで、単元での調べ学習の際に自主的な学びを促すため。</p> <p>②自主学習スペースを設定する。 →予習段階から、単元の学びの見通しをもたせたり、疑問に思ったことを調べてまとめるように促したりするため。</p>
記号	都道府県名	都道府県庁所在地																								
A		市																								
B		市																								
C		市																								
D		市																								
E		市																								
F		市																								
G		市																								

<p>1</p>	<p><b>【めあて】近畿地方の自然環境の特色を理解する。</b></p> <p>○単元のねらいや単元を貫く問いの説明を聞き、学習の目的を理解し、見直しをもつ。</p> <p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○近畿地方の地形について、予習のプリントの答え合わせを基に、地図を使って場所を確認する。</p> <p>○雨温図を読み取ることで、近畿地方の北部・中央部・南部の気候の違いやその理由を理解する。</p>	<p>[知識・技能①] (ワークシートの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習プリントや授業プリントに用語を正確に記述できているかを確認する。</li> <li>・雨温図の違いから気候の違いを読み取ることができているかをプリントの記述から確認する。</li> <li>・近畿地方の自然環境の特色を理解している。</li> </ul>
<p>2 3 4</p>	<p><b>【めあて】近畿地方や京都府の地理的特色を理解し、京都府をより発展させるプランを提案できる。</b></p> <p>○今後の授業の流れと単元のまとめ方の説明を聞き、学習の見直しをもつ。</p> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b></p> <p>○近畿地方の特色について、予習プリントを使って確認する。</p> <p><b>【多様な考えを生む問い】環境保全の取組を活かしながら、どのように京都府を発展させることができるのか。</b></p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p>○4人班で次の視点の分担を決める。</p> <p>①「生活・農業」②「工業」③「観光」④「林業・漁業」</p> <p>○同じ視点を選んだ人同士でグループを再編制する。</p> <p>○次の探究課題 A～C のどれから調べるかを決める。 (D は設定したい生徒のみ実施)</p> <p>①「生活・農業」</p> <div data-bbox="236 1727 884 2078" data-label="Complex-Block"> <p>生活 水質の改善や農業の発展のために 農業 どのような取り組みが行われているのか?</p> <p>キーワード 琵琶湖の水 富栄養化 京野菜</p> <p>&lt;探究課題&gt;</p> <p>A. 京都の人々は琵琶湖・淀川の水をどのように活用しているのか?</p> <p>B. なぜ琵琶湖の水質は悪化したのか? 琵琶湖の水質を守るために、どのような取り組みが行われているのか?</p> <p>C. 京野菜をつくる農家はどのような工夫をしているのか?</p> <p>D. もっと知りたいと思ったことを、自ら探究課題を設定して調べる。</p> </div>	<p>※予習プリントや授業プリントに用語を正確に記述できているかを確認する。</p> <p>※各視点にキーワードを設定することで、環境保全の取組についての重要事項を漏らさずに説明させる。</p> <p>※各担当の google スライドの進捗状況を見ながら、適宜個別指導を行う。</p> <p>※事前学習の「もっと知りたいこと、疑問に思うこと」を活用させる。</p>

②「工業」

**工業** 工業が発展する中でどのような環境問題が起こり、どのように改善しているのか？

キーワード  
伝統工芸品 中小企業 公害対策

<探究課題>

A. 阪神工業地帯や京都ではどのような工業が盛んなのか？  
(どこでどのような製品を生産しているのか？)

B. 京都の企業はどのような工夫をして生産しているのか？

C. 阪神工業地帯や京都の工業は、どのような環境問題が起こったのか？  
環境を守るために、工場(工業)ではどのような取り組みをしているのか？

D. もっと知りたいと思ったことを、自ら探究課題を設定して調べる。

③「観光」

**観光** 京都では観光を発展させるために、どのような取り組みをしているのか？

キーワード  
世界遺産 景観条例  
オーバーツーリズム対策

<探究課題>

A. 京都の人気観光地はどこか？

B. 京都では、歴史的景観(文化財や町並み)を守るためにどのような取り組みが行われているのか？

C. 「オーバーツーリズム」とはどのような問題なのか？  
京都ではどのような対策が行われているのか？

D. もっと知りたいと思ったことを、自ら探究課題を設定して調べる。

④「林業・漁業」

**林業  
漁業** 京都では林業や漁業が発展する中で、どのように環境を守っているのか？

キーワード  
北山林業と山国林業 緑の雇用  
企業の森づくり活動 海の民学舎

<探究課題>

A. 京都では、どこでどのような林業や漁業が行われているのか？

B. 京都の林業や漁業にはどのような課題があるのか？

C. 京都では環境を守りながら、どのようにして産業(林業や漁業)を維持、発展させているのか？

D. もっと知りたいと思ったことを、自ら探究課題を設定して調べる。

【個】

○担当になった探究課題を調べ、スライドにまとめる。

(Dは設定したい生徒のみ実施)

※スライドは共有機能を使い、全員が探究課題のA～

Dまでを閲覧できる状況にする。

<スライド作成例>

京都では、歴史的景観(文化財や町並み)を守るためにどのような取り組みが行われているのか？

京都では開発が急激に進む京都の歴史的景観は失われてきた

そこで

- ◇電線を地中に埋めた
- ◇建物の高さやデザインを整えた
- ◇看板をシンプルにした
- ◇景観条例がつけられた  
「古都の町並みが残るエリアには京都らしい和風の建物しか建てられない」というルール



【個】

※どの視点も「環境保全の取組」に着目してスライドをまとめさせる。

[知識・技能①](スライド)

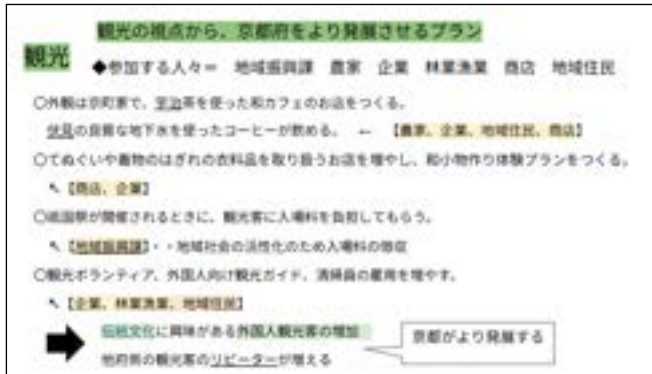
・近畿地方の環境保全の取組や地理的特色を理解している。

※実際の地域おこしやまちづくりは、さまざまな立場の人々が関わり合っているため、「京都府をより発展させるプラン」を考えさせる際には、地域振興課、農家、企業、林業・漁業をしている人、商店、中学生や高齢者などの住民などの立場を提示し、複数の立場の人々が関わるプランを考えさせる。

○A～Dまでの課題を追究する中で学んだことを基に、「京都府をより発展させるプラン」を考え、スライドにまとめる。

<スライド作成例>

「観光」の視点



[思考・判断・表現①](スライド)

・近畿地方や京都府の地理的特色を踏まえて、環境保全の取組を活かしながら、京都府をより発展させるプランを考えている。  
 ・より多くの人々が参加できるプランを考えている。

※京都府をより発展させるプランについて考えをもてない生徒には、前単元で行った「中国・四国地方」の発展プランのスライドを再確認させ、参考にするように助言する。

自主学習

- 「分からない」程度・内容の確認(スライド)と支援
- 授業中に発表資料作成が終わらなかった生徒の支援
- もっと調べたい生徒への支援

自習室で対応

5

【めあて】環境保全の取組を活かしながら、京都府をより発展させるプランを提案できる。

【考える・広げる・深める】

【集団】

○元の4人班に戻り、担当した探究課題の答えとそれぞれの視点から考えたプランについて発表し合う。

【個】

○自分以外の3つの視点から発表された内容を踏まえて、「京都府をより発展させるためのプラン」(第1案)を考え、ワークシートにまとめる。

※複数の視点を活用したプランになるようにする。

<ワークシート例>

活動地方のまとめ		
2年( )組( )番 氏名( )		
Q 環境保全の取組を活かして、京都府をより発展させるプランを提案しよう。【第1案】		
プランの内容	参加する人 (2人とする)	プランを作った理由(活動地方の地理的特色を活かす)
	地域振興課 農家 林業・漁業 商店 住民 その他	

[主体的に学習に取り組む態度①](ワークシート)

→4つの視点を踏まえて、より多くの人々が参加できる発展プランを主体的に追究している。

※考えをもてない生徒には、自分の担当した視点のプランに足せるものを考えるように助言する。

※考えをもてない生徒には、「中国・四国地方」の発展プランの良いものを提示して参考にさせる。

6

【めあて】環境保全の取組を活かしながら、京都府をより発展させるプランを提案できる。

【考える・広げる・深める】

【集団】

<4人班>

- 第1案のプランを4人班で話し合う。あくまでも「考えを広げる」話し合いとし、1つの案にまとめる話し合いにならないようにする。
- ワールドカフェに向けて、何を発表するのかを整理する。
- ホスト・別の班に行って発表する人を決める。

<ワールドカフェ班>

- 「京都府をより発展させるプラン」について、それぞれの班で考えたことについて発表し、意見を出し合う。
- 自分のグループでは出なかった視点やアイデアを記録する。

※話し合いが進まないグループには、複数のプランを合体させたり、いろいろな人が関わることのできるプランにしたりするなど、多様な意見が出るように助言する。

※国語の授業で行ったワールドカフェのやり方を想起させる。

[主体的に学習に取り組む態度①](ワークシート)

・自分のグループ以外の意見を記録することができている。

7

【めあて】環境保全の取組を活かしながら、京都府をより発展させるプランを提案できる。

【考える・広げる・深める】

【集団】

- 4人組に戻り、ワールドカフェで学んだことを共有する。
- 他のグループから出された視点やアイデアで「なるほど」と思ったものを記録する。
- 4人班で代表を1人決め、印象に残った発表や「なるほど」と思ったアイデアについて全体に発表する。

【個】

- これまでの学習を振り返って、「京都府をより発展させるプラン」(最終案)を google ドキュメントにまとめる。

<ワークシーク例>



[主体的に学習に取り組む態度①](ワークシート)

・「なるほど」と思った意見を記録することができている。

[思考・判断・表現](ワークシート)

・複数の視点を使って、より多くの人々が参加できる発展プランを考えられている。

7	<p>○第1案と最終案を比較して、変わったところや深まったところを自分で分析して google ドキュメントにまとめる。</p> <p>○振り返りアンケートを行う。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度①](ワークシート)</p> <p>・第1案と最終案を比較して、認識の変化や学びの深まりについて分析している。</p> <p>&lt;振り返りアンケートについて&gt;</p> <p>※「分かったこと、できるようになったこと」と「分からなかったこと、できなかったこと」「もっと知りたいこと」を質問項目とする。</p> <p>※「分からなかったこと、できなかったこと」に対しては、事前学習の再復習などの課題を提示し、「もっと知りたいこと」については発展的な学習内容を提案する。</p>
自主学習	<p>○基礎的な用語を確認したい生徒は事前学習のプリントに再度取り組ませる。</p> <p>○発展的なことを調べたい生徒には、京都府や京都市が行っている地域振興の取り組みや近畿地方の他県の取り組みを調べさせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自習室で対応</div>

## 6 成果と課題

- 【成果】①教科書をベースにした事前学習を行ったことで、生徒が基本的な用語や調べ学習の際にキーワードになる用語の理解をスムーズに行うことができた。
- ②近畿地方(京都府)の地理的特色を理解させるために、4つの視点に分けてジグソー学習を行い、グループ内で発表を行った。担当する視点について班員に説明しなければならない責任感が生まれ、スライド作成や発表準備を意欲的に行う生徒が多かった。授業者は、生徒がまとめているスライドの状況をモニタリングして、適宜指導を行った。特にキーワードを入れていない生徒には、キーワードがどの課題に関係するのかを考えさせ、スライドの説明の中に入れさせた。
- ③ジグソー学習の中で同じ担当者ごとに集めて作業をさせたため、生徒同士で質問したり、教え合ったりするなど協働的に学ぶ姿が見られた。その結果、どのグループでも、キーワードを使って近畿地方や京都府の地理的特色を説明できるようになった。
- ④集団で考える場面では、2つの段階を設定した。①個人で考えた第1案を4人組で話し合わせた段階、②ワールドカフェによってより多くの意見に触れるという2段階である。2つの段階を設定したことで、生徒の考え方を広げることができた。多くの生徒が、最終案を書く際に京都府の地理的特色を活かして、さまざまな立場や視点を取り入れたプランを提案できるようになった。
- ⑤生徒に、第1案と最終案を比較させ、変わったところや深まったところを分析させた場面で、次の意見を書いた生徒がいた。

[生徒のワークシートより]

初めは京都の観光に対して京都住民、観光客というような大まかな分類で考えていましたが、ワールドカフェを通して京都住民の中にも京都市や京都市周辺、また、過疎化の進んでいる地域で暮らしている人が存在し、観光客の中にも海外からや他県から、体の不自由な人、高齢者などがいるのでそれぞれに合った観光地の工夫が求められることに気がつきました。今回の授業を通して私は地域発展のためのプランなどを考えるときは様々な人の立場になって考えることが重要なのだと分かりました。これからはそれらを意識し、より授業の学びを深めることができたら良いなと思います。

この生徒は、考えを広げるワールドカフェの学習活動を通して自らの視点が広がり、京都住民や観光客の多様性や、それぞれの人々に適した観光地の工夫が必要なことに気付くことができた。そして、地域の発展を考える際には様々な人々の立場で考える必要があるという見方・考え方を働かせることができた。このように集団で考える場面の中で、生徒の学びが深まる様子が見られた。

【課題】①生徒が考えた「環境保全の取組を活かしながら、京都府をより発展させるプラン」の最終案を見ると、「環境保全の取組を活かして」の部分が弱い提案をしている生徒が見られた。京都のオーバーツーリズム問題の対策を提案する生徒が多かったが、環境保全の取組とあまり関係しない提案になっている生徒が少なからずいた。これは、発展させるプランという部分のみを見て考えてしまったためだと考えられる。「環境保全の取組とどのように関係するプラン」なのかをもっと考えさせる指導が必要であった。

### 授業を終えて 【ホンネの話】

#### ○良いものから学ぶ

本単元(近畿地方)の単元構成(ジグソー学習)に近いものを、前の単元である「中国・四国地方」でも行いました。「中国・四国地方」では学習の仕方に慣れることに時間がかかり、生徒の思考もあまり深まりませんでした。そこで、本単元ではスムーズに学習を進めて、生徒の思考が深まるように、「中国・四国地方」で A 評価のスライドや単元のまとめを複数紹介して、見本としました。多くの生徒は、見本を参考にしながらスライドや単元のまとめを作成していました。良いものを見本として生徒に示すことで、学級全体の取り組みの質が上がりました。授業者が説明するよりも、生徒の良い作品を見せた方が効果的であることを実感しました。

#### ○カリキュラムマネジメントの大切さ

教科書の構成では、近畿地方の単元は5～6時間扱いになっています。本単元は、調べ学習や集団で学ぶことを重視したため全7時間になりました。生徒が調べたり、考えたり、集団で学び合ったり、まとめをじっくり書くためにはどうしても時間がかかります。社会科の年間授業時数を考えると、全単元で本時のような単元構成にすることは現実的ではありません。今年度は地理的分野の授業で想定よりも多くの時間を使ってしまった結果、歴史的分野の授業にゆとりがなくなりました。1年間の授業の中で、どの単元でどのような力を生徒につけさせたいのかを考えながら授業方法を工夫して、年間のカリキュラムを調整していく力が求められます。



○授業で使用したワークシート

単元の見通しをもたせるために使用したもの

\_\_\_\_月\_\_\_\_日( )

地理の授業プリント \_\_\_\_\_年\_\_\_\_組\_\_\_\_番 名前\_\_\_\_\_

## ～ 近畿 ② ～

単元のねらい  
環境保全の取り組みを活かしながら、京都府をより発展させるプランを提案できる。

単元で「考える問い」  
環境保全の取り組みを活かしながら、どのように京都府を発展させることができるのか？

単元の学習課題①  
京都府の人々は生活や産業の変化の中で、どのように環境を守ったり活かしたりしているのか？4つの視点からまとめよう。

生活・農業

工業

観光

林業・漁業

担当する視点から学習課題について調べ、google スライドにまとめる。

単元の学習課題②  
4つの視点で見られた産業の発展と環境保全の取り組みを活かしながら、どのように京都府を発展させることができるのか？複数の立場の人々に関わるプランを提案しよう。

京都府の  
地域振興課  
【まちづくり】

農家  
【農業】

企業  
【工業】

林業・漁業  
【林業漁業】

商店  
【商業】

中学生  
高齢者など  
【住民】

◇今後の授業の流れ【全7時間】(見通しをもとう)

時	授業内容
1	事前学習を使って、地形・気候などの自然環境の特色を理解する。
2	事前学習を使って、近畿地方の地理的特色を理解する。
3	今後の授業の流れを知り、4人組で調べ学習の担当者を決める。
4	4つの視点に分かれて調べ学習を行う。
5	4人組内で調べたことを発表する。
6	個人で「京都をより発展させるプラン」を考える。
7	4人組内でプランを発表し、ワールドカフェの準備をする。
8	ワールドカフェを行い、他の班の意見を知る。
9	ワールドカフェで出た意見を4人組内で報告する。
10	ワールドカフェで出た意見をクラス全体で共有する。
11	個人で「京都をより発展させるプラン」を完成させる。

ジグソー学習

ワールドカフェ

\_\_\_\_月\_\_\_\_日( )

地理の授業プリント

\_\_\_\_年\_\_\_\_組\_\_\_\_番 名前\_\_\_\_\_

～ 近畿 ⑤ ～

環境保全の取り組みを活かしながら、  
京都府をより発展させるプランを考えて完成させよう。

視 点	立 場
生活・農業	京都府の地域振興課【まちづくり】
工業	農家【農業】
観光	企業【工業】
林業・漁業	林業・漁業【林業漁業】
	商店【商業】
	中学生、高齢者など【住民】

2つ以上の視点を使い、  
複数の立場の人々に関わる  
プランにしましょう。

◇今後の授業の流れ（見通しをもとう）

学習過程	授業内容
考える 【個】	個人で「京都府をより発展させるプラン」（第1案）を考える。
広げる 【集団】	4人組内でプランを発表し、ワールドカフェの準備をする。
	ワールドカフェを行い、他の班の意見を知る。
	ワールドカフェで出た意見を4人組内で報告する。 ワールドカフェで出た意見をクラス全体で共有する。
深める 【個】	個人で「京都府をより発展させるプラン」（最終案）を完成させる。

◇ワールドカフェの報告を聞いて、「なるほど!!」と思ったアイデアをメモしよう。

# 数学科 第2学年 「図形の調べ方」

## 1 単元名(教材名)

数学科 主任教諭 神保 真実

4章 図形の調べ方

1 節 平行と合同、2 節 図形の性質の利用

## 2 単元の目標

- (1) 平行線や角の性質を理解し、多角形の角についての性質を見いだすことができる。 [知識及び技能]
- (2) 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確認説明することができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 平面図形の性質について学んだことを生活や学習に活かそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。 [学びに向かう力、人間性等]

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平行線や角の性質を理解している。 ②多角形の角についての性質を見いだせることを知っている。	①基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにして確かめたり、根拠を明らかにして説明したりしている。	①図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習に活かそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりしている。

## 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】平行線や角の性質を基に、角の求め方をいろいろな方法で考えることができる。

考えさせる問い

角の大きさの求め方について、いろいろな方法を見つけよう

班での話し合いを通して

「考えさせる問い」  
に使う知識を  
「教える」

- ①平行線や角の性質について
- ②三角形の内角の和、三角形の内角と外角の関係
- ③多角形の内角の和、外角の和の求め方

考える

個

平行線や角の性質などを利用して、へこみのある図形や星形七角形の角の大きさの求め方を考える。

広げる

集団

個人で考えたことを4人班で交流し、気付かなかった求め方を知る。  
班で1つ選んだものを発表し、全体で共有する。

深める

個

全体での発表を聞き、新たに知った求め方をワークシートにまとめる。

5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全7時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点
1 2 3	<p><b>【めあて】直線が交わってできる角の性質を理解し、問題を解くことができる。</b></p> <p><b>【教わる・知る】</b> ○対頂角、同位角・錯角を知り、平行線の性質、平行線になるための条件を理解する。</p> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b> ○教科書の問題で、対頂角、同位角、錯角の位置や角の大きさを確認する。</p>	<p>[知識・技能①](アウトプット場面の観察・振り返り・小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解くことができているかを確認する。</li> <li>・振り返りに次の2点があるか、確認する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①用語についての記述がある。</li> <li>②平行になる理由として同位角や錯角が等しいことが使えるという記述がある。</li> </ul> </li> </ul>
自主学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○C 評価の生徒の「分からない」程度・内容の確認と支援</li> <li>○ワークでの定着度の確認</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自習室で対応</div>
4 5 6	<p><b>【めあて】三角形の内角の和、多角形の内角の和、多角形の外角の和について調べ、理解することができる。</b></p> <p><b>【既習事項定着の確認(アウトプット)】</b> ○三角形の内角の和は <math>180^\circ</math> であること ○平行線の同位角・錯角は等しいこと</p> <p><b>【教わる・知る】</b> ○平行線の性質を使うことで、三角形の内角の和が <math>180^\circ</math> になることを理解する。 ○角の大きさによって三角形の分類ができることを理解する。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b> ○三角形の内角が <math>180^\circ</math> ということをもとに、四角形、五角形、六角形の内角の和がいくつになるかを考える。</p> <p><b>【集団】</b> ○個人で考えたことを4人班で交流し、n角形の内角の和がどうなるかを考え、全体で共有する。</p> <p><b>【個】</b> ○話し合いを通して広がったこと、新たに気付いたことなどをワークシートに書き足す。</p> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b> ○教師による確認後、教科書の問題を解き、多角形の内角の和を求めたり、内角の和から何角形か求めたりする。</p>	<p>[知識・技能①](アウトプット場面の観察・振り返り・小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解くことができているかを確認する。</li> <li>・振り返りに用語や性質についての記述があることを確認する。</li> </ul> <p>[思考・判断・表現①](ワークシート・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをワークシートに書いているかを確認する。</li> <li>・共有した考えをもとにn角形の場合を考えることができているかを確認する。</li> </ul>

<p>4 5 6</p>	<p><b>【教わる・知る】</b> ○多角形の外角の和は <math>360^\circ</math> になることを理解する。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b> ○なぜ多角形の外角の和がすべて <math>360^\circ</math> になるかを考える。</p> <p><b>【集団】</b> ○ペアで考えたことを共有し、考えを深める。 ○何ペアか全体で考えたことを発表する。 ○教師のまとめを聞いてさらに理解を深める。</p> <p><b>【個】</b> ○最初に考えたときには気付かなかったこと、深まったことなどについてワークシートに書き足す。</p> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b> ○教師による確認後、教科書の問題を解き、多角形の外角の和を使って、<math>\angle x</math> の大きさを求めたり、正多角形の1つの外角を求めたりする。</p>	<p>[知識・技能①] (アウトプット場面の観察・小テスト) ・問題を解くことができているかを確認する。</p>
<p>自主学習</p>	<p>○C 評価の生徒の「分からない」程度・内容の確認と支援 ○ワークでの定着度確認</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自習室で対応</p>
<p>7</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>【めあて】</b>平行線や角の性質を基に、角の求め方をいろいろな方法で考えることができる。</p> <p><b>【既習事項の確認(アウトプット)】</b> ○角を求めるときに使える既習事項を確認する。 ・対頂角は等しい。 ・平行線の同位角、錯角は等しい。 ・三角形、四角形の内角の和 ・三角形の外角の性質 ・多角形の外角の和は <math>360^\circ</math></p> <p style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"><b>【多様な考えを生む問い】</b>へこみのある図形の角の求め方について、いろいろな方法を考えよう。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b> ○既習事項を基に、へこみのある図形の角の求め方を考える。</p> <p><b>【集団】</b> ○個人で考えたことを4人班で交流し、いいと思った考えを大きな紙にかく。 ○それぞれの班で考えたことを根拠を明らかにしながら説明する。 ○発表で紹介された求め方について、教師の補足やまとめを確認する。</p>	<p>[思考・判断・表現①] (ワークシート・観察) ・自分の考えをワークシートに書き、説明することができているかを確認する。 ※どの考え方をしても、最終的には、3つの内角の和がへこみ部分の角の大きさと等しいことに結び付ける。</p>

7	<p><b>【個】</b> ○個人で思いつかなかった求め方をワークシートにまとめる。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度①・粘り強さ・調整力](観察) <b>【集団】の時間</b> ・中心となってまとめている生徒(A評価)、参加できずにいる生徒(C評価)の確認。その場での支援。 <b>【個】の時間</b> ・個人で思いつかなかった求め方をワークシートにまとめ、考えを振り返ることができるかを確認する。</p>		
自主学習	<p>○C評価の生徒の「分からない」程度・内容の確認と支援 ○もっと考えたい生徒へ、教科書の巻末にある他のへこみのある図形の求め方について紹介する。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自習室で対応</div>			
8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】星形七角形の角の求め方について、いろいろな方法を見付けることができる。</b></p> </div> <p><b>【既習事項の確認(アウトプット)】</b> ○星形五角形の角の求め方を確認する。 ○角を求めるときに使える既習事項を確認する。 ・対頂角は等しい。 ・平行線の同位角、錯角は等しい。 ・三角形、多角形の内角の和 ・三角形の外角の性質 ・多角形の外角の和は <math>360^\circ</math></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【多様な考えを生む問い】星形七角形の角の求め方について、いろいろな方法を見付けよう。</b></p> </div> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><b>【考える・広げる・深める】</b> <b>【個】</b> ○星形七角形の角の求め方を考える。 <b>【集団】</b> ○個人で考えたことを4人班で交流し、いいと思った考えを大きな紙にかく。 ○それぞれの班で考えたことを根拠を明らかにしながら説明する。 ○発表で紹介された求め方について、教師の補足やまとめを確認する。 <b>【個】</b> ○個人で思いつかなかった求め方をワークシートにまとめる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>[思考・判断・表現①](ワークシート・観察) ・自分の考えをワークシートに書き、説明することができるかを確認する。 [主体的に学習に取り組む態度①・粘り強さ・調整力](観察) <b>【集団】の時間</b> ・班の中で意見が出ない場合は、補助線のひき方などヒントを与え、考えられるようにする。 <b>【個】の時間</b> ・個人で思いつかなかった求め方をワークシートにまとめ、考えを振り返ることができるかを確認する。</p> </td> </tr> </table>		<p><b>【考える・広げる・深める】</b> <b>【個】</b> ○星形七角形の角の求め方を考える。 <b>【集団】</b> ○個人で考えたことを4人班で交流し、いいと思った考えを大きな紙にかく。 ○それぞれの班で考えたことを根拠を明らかにしながら説明する。 ○発表で紹介された求め方について、教師の補足やまとめを確認する。 <b>【個】</b> ○個人で思いつかなかった求め方をワークシートにまとめる。</p>	<p>[思考・判断・表現①](ワークシート・観察) ・自分の考えをワークシートに書き、説明することができるかを確認する。 [主体的に学習に取り組む態度①・粘り強さ・調整力](観察) <b>【集団】の時間</b> ・班の中で意見が出ない場合は、補助線のひき方などヒントを与え、考えられるようにする。 <b>【個】の時間</b> ・個人で思いつかなかった求め方をワークシートにまとめ、考えを振り返ることができるかを確認する。</p>
<p><b>【考える・広げる・深める】</b> <b>【個】</b> ○星形七角形の角の求め方を考える。 <b>【集団】</b> ○個人で考えたことを4人班で交流し、いいと思った考えを大きな紙にかく。 ○それぞれの班で考えたことを根拠を明らかにしながら説明する。 ○発表で紹介された求め方について、教師の補足やまとめを確認する。 <b>【個】</b> ○個人で思いつかなかった求め方をワークシートにまとめる。</p>	<p>[思考・判断・表現①](ワークシート・観察) ・自分の考えをワークシートに書き、説明することができるかを確認する。 [主体的に学習に取り組む態度①・粘り強さ・調整力](観察) <b>【集団】の時間</b> ・班の中で意見が出ない場合は、補助線のひき方などヒントを与え、考えられるようにする。 <b>【個】の時間</b> ・個人で思いつかなかった求め方をワークシートにまとめ、考えを振り返ることができるかを確認する。</p>			
自主学習	<p>○C評価の生徒の「分からない」程度・内容の確認と支援</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自習室で対応</div>			

## 6 成果と課題

- 【成果】①授業の始めに【既習事項の確認】を行うことで、【考える・広げる・深める】の時間に根拠にできるものをはっきりとさせることができ、「個」の考えを生むことや、「集団」で広げることにつながった。
- ②【活動】根拠を明らかにしながら説明させることで、いろいろな図形の見方を働かせることができ、他の方法を考えることにもつながっていた。
- ③【教材】いろいろな考え方ができるが、最終的には同じ一つの式にまとめることができ、数学のおもしろさを感じさせることができた。
- 【課題】①習熟度別少人数授業では、苦手な生徒が多いクラスでは「個」で考えを生むことや、「集団」で広げることが難しいことが予想でき、扱う問題の選択が必要である。
- ②問題の難易度によって、「個」→「集団」→「個」の時間配分が難しく、1時間に収まらないことも出てきてしまう。まとめが次の時間に繰り越しになった場合に、思考したことを思い出す作業が必要になる。

### 授業を終えて 【ホンネの話】



数学で問題を解くときに、答えに至る過程は様々考えることができますが、到達する答えは決まっています。早く正確に解くためにはこの解法というように、解き方が絞られてしまう問題があります。今回の研究では「話し合いをして考えを広げる」ことに難しさを感じました。しかし、「話し合い」にこだわりすぎず、いろいろな見方を共有して、思考を深めることに重点を置いて授業を進めることを意識しました。教科書にあるような問題、今までの授業を基にしつつ、短時間でもペアや4人組で説明をし合い、考えを共有することで、他の問題に生かせる考え方を蓄積していくことができるのではないかと考えています。

また、【課題】にも書きましたが、数学の習熟度別少人数授業では、苦手な生徒が多いクラスでは、なかなか考える・広げる・深めるというところまでいくことが難しいと感じています。一方で、得意な生徒が多いクラスでは、様々な考えが生まれ、「個」の考えを「集団」で広げることを楽しんでいる生徒も多かったです。生徒の実態に応じて、問題を一層工夫させる必要があると思います。

今回の授業案では、7時間目にへこみのある図形の角の求め方を考えました。そして、8時間目にさらに発展させた形として、星形七角形の角にも挑戦しました。星形七角形は、「個」で考えを出すことが難しく、「集団」で協力して考えを出すような形になりました。「集団」の時間が多く必要になり、1時間の時間内にまとめの「個」の時間までとることができなかつたので、時間配分も難しかったです。

ワークシート①

多角形の内角の和 ノートにはる! 組番氏名



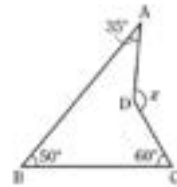
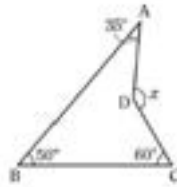
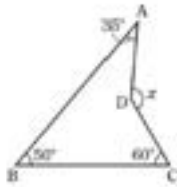
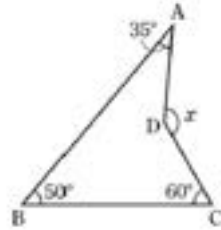
多角形	辺の数		
三角形	3		
四角形	4		
五角形	5		
六角形	6		
七角形	7		
八角形	8		

$n$  角形の内角の和は,

ワークシート②

角の大きさを求める ノートにはる! 組番氏名

P.115 Q 下の図で、 $\angle x$ の大きさを求めなさい。

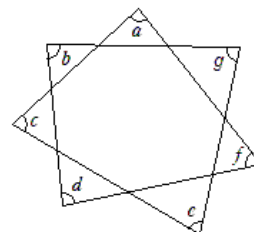
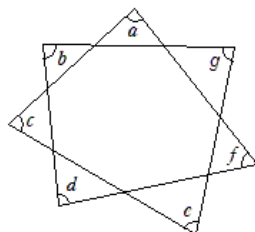
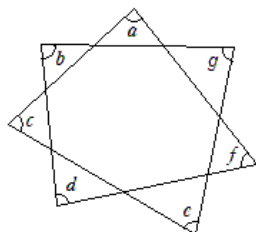
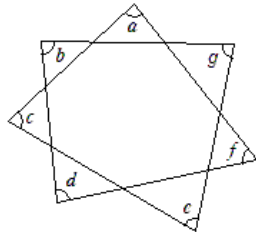


新興出版社 啓林館 未来へひろがる数学2(2025年版)

ワークシート③

星形七角形 ノートにはる! 組番氏名

下の図の印のついた角の和を求めなさい。



**角の大きさを求める ノートにはる!** 組番氏名

P.115 Q 下の図で、 $\angle x$ の大きさを求めなさい。

$x = 145^\circ$

11月19日(火)

めあて: へこんだ図形の角の大きさを求めることができる!

今日の授業で気付いたこと、大切だと思ったこと、自分の理解が上手くできなかったことなどを書きましょう。

上のようなへこんだ図形は、 とはじめてわかった。

これは、この図形と三角形の見立てあり、錯角を使ったりすれば出せるとわかった。

待った法則 → 三角形の内角和 =  $180^\circ$ 、平行線の錯角は等しい、

別の生徒の振り返り

11月19日(火)

めあて: へこんだ図形の角の大きさを求めることができる!

今日の授業で気付いたこと、大切だと思ったこと、自分の理解が上手くできなかったことなどを書きましょう。

平行線のはず

のはず

平行線のはず

平行線のはず

三角形をつくり

$180 - \alpha = 90$   
 $180 - 90 = \alpha$

四角形のはず

$360 - \alpha = \alpha$   
 $360 - \alpha = \alpha$

これは全部たして360



# 理科 第1学年 物質 身のまわりの物質

## 1 単元名(教材名)

理科 主幹教諭 田中 博之

物質 身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質 1 物質の区別

(啓林館『未来へひろがるサイエンス 1年』より)

## 2 単元の目標

- (1) 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、身の回りの物質とその性質を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けさせる。 [知識及び技能]
- (2) 物質の性質について見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を見いだして表現するとともに、観察、実験の過程を科学的に探究できるようにする。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 身の回りの物質の性質や変化に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。 [学びに向かう力、人間性等]

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、身の回りの物質とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。	①物質の性質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を見いだして表現している。	①物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
②科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	②物質の性質について、科学的に探究している。	

## 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】身の回りの物質とその性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質固有の性質と共通の性質があることを見いだし、物質を特定する。

考えさせる  
問い

正体が不明の白い粉末状の謎の物質 X を見分ける方法について自分の意見をもち、工夫して実験の計画を立て、X の正体を探る。

話し合いを  
通して

「考えさせる問い」  
に使う知識を  
「教える」

- ①物体と物質の区別についての理解
- ②ガスバーナーの使い方に関する技能取得
- ③安全な実験を行うための注意事項の確認(おおいの確かめ方、味を調べてはいけない等)

考える

個 個人で、謎の物質Xの正体は砂糖、食塩、かたくり粉のどれかを明らかにするための実験の計画を立てる。

広げる

集団 個人で考えた「謎の物質Xの正体を調べる実験の計画」の意見を出し合い、課題解決につながる、具体的な実験の計画を4人班で立て、ワークシートに記入する。

深める

個 集団で出し合った実験の計画を参考に、個人で思考ツールに「砂糖」、「食塩」、「かたくり粉」を実験で用いたときに起こりうる結果を整理して、次回の実験に備える。

5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全7時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点
1	<p><b>【めあて】</b>物体と物質の区別ができる。物質の性質の調べ方を知る。</p> <p><b>【教わる・知る】</b>            ○身の回りの食器を見て、物体としてものを判断するときと物質としてものを判断するときの区別の仕方について理解する。            ○物質によって、固有の性質があることを理解する。</p>	<p>[知識・技能①](定期考査)            ・物体と物質の区別について理解できている。</p>
2 3 4	<p><b>【めあて】</b>物質を調べる実験で使用する器具の使い方を理解し、正しい手順で使用できる。</p> <p><b>【教わる・知る】</b>            ○ガスバーナーの使い方を理解する。            ○ガスバーナーを正しく安全に使用することができる。            ○電子てんびんを正しく安全に使用することができる。            ○メスシリンダーを正しく安全に使用することができる。</p> <p><b>【技能定着の確認(アウトプット)】</b>            ○順番に、正しい手順で安全にガスバーナーの点火、消火までの操作を行う。</p>	<p>[知識・技能②](ワークシート・実技テスト)            ・ガスバーナーの各部分やねじの名称が理解できている。            ・正しい手順で安全に器具を使うことができる。            ※操作が苦手な生徒には他の生徒が助言をして技能の定着を図る。            ※最後の時間に、ガスバーナーの点火、消火の実技テストを行う。</p>
復習・予習	<p><b>【復習】</b>            ○ガスバーナーの使い方を今一度確認する。</p> <p><b>【予習】</b>            ○白い粉末状の物質の性質データをつくる。            復習・予習用のワークシートを用いてガスバーナーの使い方の確認と砂糖、食塩、かたくり粉のもつ性質を調べる課題に取り組む。</p>	<p>【知識・技能②】(ワークシート)            ・ガスバーナーの使い方の正しい手順に関する知識が身に付いているかを確認する。</p> <p>【知識・技能①】(ワークシート)            ・砂糖、食塩、かたくり粉の性質をまとめているかを確認する。</p>
5	<p><b>【めあて】</b>白い粉末状の物質の正体を見分けるための実験の方法に対する自分の意見や考えをもつ。</p> <p><b>【多様な考えを生む問い】</b>正体が不明の白い粉末状の謎の物質 X を見分ける方法について自分の意見を持ち、工夫して実験の計画を立て、謎の物質 X の正体を探る。</p> <p><b>【教わる・知る】</b>            ○4種類の実物の白い粉末状の物質(砂糖、食塩、かたくり粉、謎の物質 X)を見て、物質にはそれぞれ特有の性質があること、砂糖、食塩、かたくり粉、それぞれの性質と一致する性質を確かめていけば、謎の物質 X の正体を明らかにすることができることを確認する。</p>	<p>※謎の物質 X は「砂糖」とした。砂糖は食塩と同様に水に溶け、かたくり粉と同様に燃やすと二酸化炭素が発生するため、複数の実験を組み合わせなければ正体が判断できないようにするため。</p>

5

**【考える・広げる・深める】**

**【個】**

○個人で、謎の物質Xの正体を明らかにするための実験の計画、予想される結果、結果から判断できる物質の分類までを記載し、分岐チャートを完成させる。

[考えをもつための視点・工夫]

・理科室の空きスペースに展示された次の物を展示し、見たり触ったりして実験の計画を立案する。

(実験器具)

- ・試験管 ・ビーカー ・ガラス棒 ・ガスバーナー
- ・集気びん ・燃料さじ ・アルミカップ ・保護眼鏡
- ・電子てんびん ・ルーペ ・双眼実体顕微鏡

(試薬)

- ・石灰水 ・ヨウ素溶液

・展示していない実験器具や試薬についても、実験の計画を立てる上で必要があれば使用について教師に相談する。

**【集団】**

○個人で考えた「謎の物質Xの正体を調べる実験の計画」について意見を出し合い、4人班で1つの実験の計画にまとめ、ワークシートに記入する。

○話し合いでは、次の4つを分担する。

- ①リーダー(話し合いの進行管理係)
- ②セーフキーパー(安全面の点検係)
- ③アイディアバンク(様々な実験の計画の提案係)
- ④タイムキーパー兼書記(記録係)

○各班で話し合った内容について、代表者が全体で発表を行う。

**【個】**

○最初に立てた実験の計画と話し合い後にまとめた4人班の実験の計画や他の班の実験の計画と比較し、新たに分かったことや深められたことをワークシートに記入する。

○個人でクラゲチャート(思考ツール)に実験の過程で起こる予想を記入し、実験の計画をまとめる。

○ワークシートを提出する。

※1種類の実験の計画では、物質Xの正体を見分けることは難しいので、複数の実験の計画を立てることを生徒に伝える。

[思考・判断・表現②](ワークシート)  
・物質の性質について、科学的に探究している。

[主体的に学習に取り組む態度①]  
(ワークシート)

・実験の計画、予想される結果、結果から判断できる物質の分類まで記入できている。

・4人班や全体での発表を通して、個人で立てた実験の計画に広がりや深まりが見られ、科学的に探究しようとする姿勢が見られ、最終的な実験の計画の記入ができている。

※授業後、各班の実験の計画を点検し、実験の計画が適切であるか、安全に配慮した計画になっているか確認し、実験実施の可否を授業者が決定する。

<p>6</p>	<p><b>【めあて】</b>前時に立てた計画で白い粉末状の物質の正体を見分ける実験を行い、謎の物質 X の正体を探る。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○前時に立てた実験の計画に従って、班で必要な実験器具や試薬を受け取り、安全面に気を付けて実験を進め、物質 X の正体を明らかにする。</p> <p><b>【生徒の活動の様子】</b></p> <p>○ヨウ素溶液の反応を確かめる計画を立てた班 →アルミカップに入れたかたくり粉にヨウ素溶液のみ青紫色に変化した。</p> <p>○ガスバーナーで各粉末が燃えるか確かめる計画を立てた班 →砂糖、かたくり粉、物質 X が燃え、食塩が燃えなかった。</p> <p>○少量を水に溶かす計画を立てた班 →100mL容のビーカーに 100gの水を入れ、葉さじの小さなさじ1杯分の各粉末を入れてガラス棒でかき混ぜたところ、かたくり粉のみ溶解残りビーカーの底に沈み、砂糖、食塩、物質 X は溶けた。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○実験結果を基に物質 X の正体について、自分の考えをもつ。</p> <p>○事前に立てた実験の計画について振り返り、さらに工夫ができることなどについて自分の考えをもつ。</p>	<p><b>【思考・判断・表現①②】</b>(観察・ワークシート)</p> <p>・実験の計画に従って、実験を行うことができている。</p> <p>・実験結果から、物質 X の正体を明らかにできている。</p>
<p>7</p>	<p><b>【めあて】</b>燃え方によって物質は有機物と無機物に分けられることを知る。</p> <p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○有機物と無機物の燃え方の違いを理解する。</p> <p>○有機物であれば燃えると二酸化炭素と水が発生すること、無機物であれば燃えない又は燃えても二酸化炭素が発生しないことを理解する。</p> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b></p> <p>○e ライブラリやミライシード(ドリルパーク)を通して、理解できているかどうかを確認する。</p>	<p><b>[知識・技能①]</b>(ワークシート)</p> <p>・白い粉末状の物質を加熱すると、「砂糖」と「かたくり粉」は燃えるが、「食塩」は燃えなかったことを根拠に、燃えて二酸化炭素を発生する物質をまとめて有機物、燃えても二酸化炭素が発生しない物質を無機物ということの区別ができている。</p>

## 6 成果と課題

**【成果】**①最初の【個】では、生徒が予習で各自が調べた内容を活用したり、教室内に展示した実験器具や試薬を手にとって思考したりすることで、多くの生徒が複数の実験の計画を立てることができた。

②あまり実験の計画に対する考えが浮かばなかった生徒も、【集団】の際に行った話し合い活動で、他者から予習で得た知識や理科室内の実験器具や試薬の使い方を教わり、自分の考えをもとうとしていた。また、別の班での話し合い活動では、予習の内容を深めた発言が出たり、教室内に展示した実

験器具や試薬を組み合わせた考えの発言が出たりと、考えを深めている姿を見ることができた。

③最後の【個】では、生徒全員がクラゲチャートに食塩、かたくり粉のもつ性質を複数挙げることで、【集団】の際に行った話し合い活動で各自が考えた実験の計画を出し合うことで、実験の計画や物質の性質についての理解が深まったと考えられる。理科が苦手な生徒でも、他の生徒の考えを手掛かりにして、考えをまとめることができていた。

【課題】①【予習】の取組の程度によって、最初の【個】で実験の計画を考える際の活動に差が出ていた。丁寧に予習に取り組んだ生徒は、短時間で複数の実験の計画を挙げることで、予習の取り組みが不十分な生徒は、実験の計画を考えることに苦戦していた。予習が授業に活かせることをもっと生徒に理解させる必要がある。

②この単元内でガスバーナーなどの実験で使用する器具の使い方を扱ったが、授業が進むにつれて使い方を忘れてしまう生徒も出てくるのが想定される。器具の使い方について生徒が各自で振り返り、学びの調整ができる方法についても模索していく。

### 授業を終えて 【ホンネの話】

観察・実験の授業では、安全面の配慮や生徒が適切な実験結果を得られるよう生徒が失敗することなく実験を展開することをつい重視して、教科書どおりに実験を進めたり、教師から実験器具や実験の方法を提案したりすることが多くなって、生徒に自由に実験の計画を立てさせ実験させることになかなか踏み切れませんでした。

今回の授業実践で、指導案作成時点では、生徒がどのくらい具体的な実験の計画を立てられるか未知数でしたが、実践した授業内で、生徒が真剣に実験の計画を立案し、次の授業でその計画に従って実験する様子が多く見られました。生徒に任せても、課題解決に向けて取り組むことができるのだということが実感できました。

授業実践の後、第1学年の同単元の次の章である「いろいろな気体とその性質」においても、最初の授業で気体の調べ方とその調べ方で判断できる気体の種類を教え、次の授業以降で気体を発生させて、集めた気体の正体を調べる実験の授業をしました。各班で集めた気体の調べ方を考えさせたり、使う実験器具や薬品を選ばせたりする展開を行いました。今回の実践と同様に、何種類もの実験の計画を立案したり、実験で確認したりしようと生徒は意欲的に取り組んでいました。

生徒が自分たちで、実験の方法を考えて実験できる授業展開は、生徒にとっての理科のわくわく感の高まりにつながることに改めて気付かされた授業実践となりました。



【ガスバーナー復習問題】

(1) ガスバーナーの炎色が、赤色であった。不足しているのは、何であるか。

ガス      空気      温度

(2) ガスバーナーを点火するときの動作を下にあげた。順番として正しいものを選びなさい。

- 1 ガスのねじを少しゆるめて火をつけ、炎の大きさを調節する。
- 2 元せんを開ける。
- 3 ガスのねじをおさえながら、空気のねじを回し、炎の色を調節する

【教科書 p.139 より】

○ 白い粉末状の物質を調べる時、理科の実験では、 を調べることをしてはいけない。

【白い粉末状の物質の性質データづくり】

○ 見た目が白い粉末状の物質の正体を知るために、性質をまとめましょう。■

<p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">砂糖</p> 	<p>味</p> <hr/> <p>性質</p> <hr/> <hr/> <hr/>
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">かたくり粉</p> 	<p>味</p> <hr/> <p>性質</p> <hr/> <hr/> <hr/>
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">食塩</p> 	<p>味</p> <hr/> <p>性質</p> <hr/> <hr/> <hr/>

組      番      名前

---

めあて：白い粉末状の物質の正体を見分けるための実験方法に対する自分の意見や考えをもつ。

【課題】

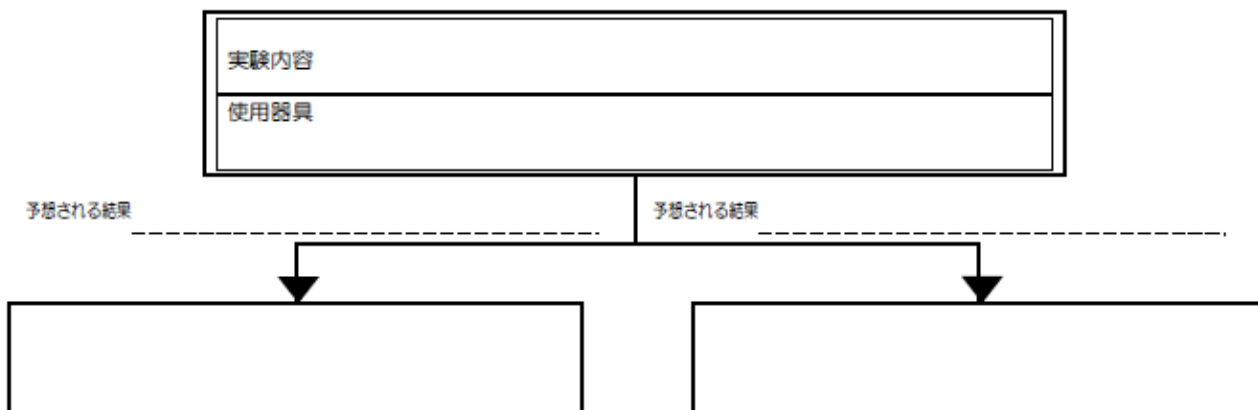
砂糖 	食塩 	かたくり粉 	謎の物質X 
---	---	--	--

謎の物質 X の正体は何だろう？  
 (砂糖、食塩、かたくり粉のいずれかをすりつぶした白い粉末状の物質)

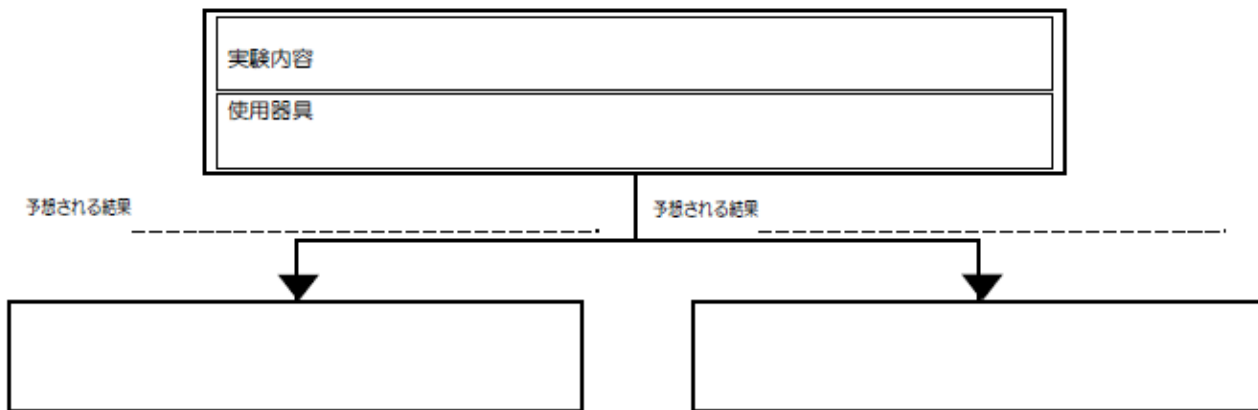
【実験計画】



【実験計画】

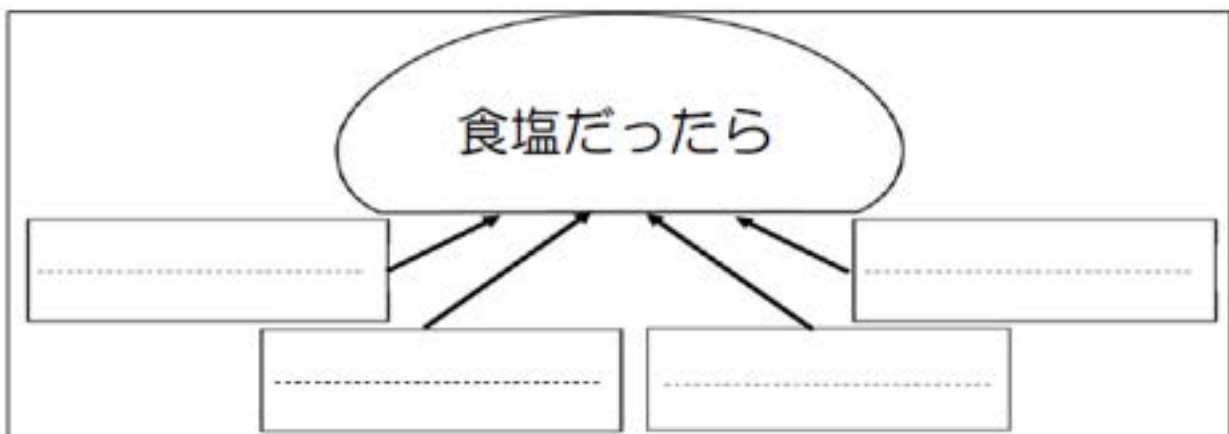
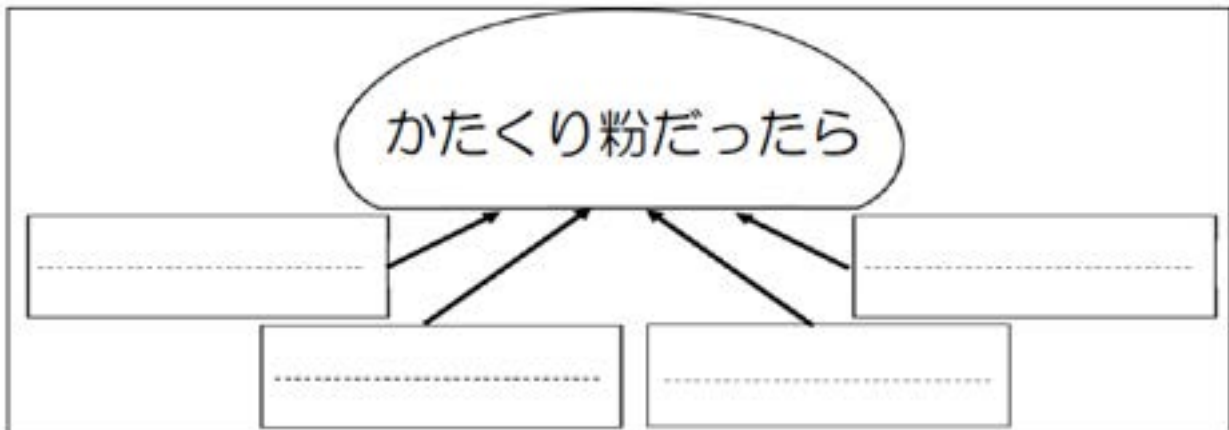
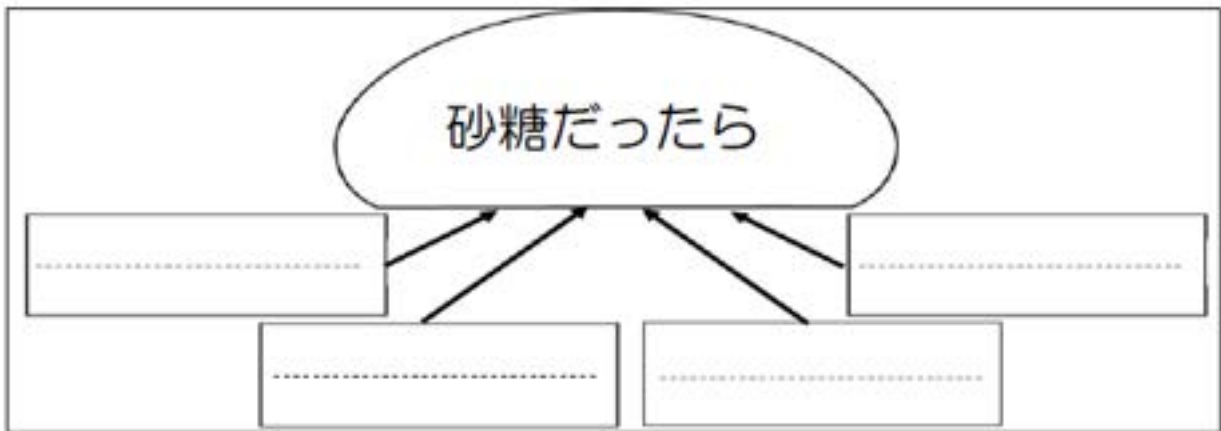


【実験計画】



組 番 名 前

【 クラゲチャートで整理しよう ~もし、物質Xが・・・~ 】



組 番 名前

---

# 理科 第3学年 「四季の星座の移り変わり」

## 1 単元名(教材名)

理科 主任教諭 堀越 信

【地球】2章 太陽と恒星の動き 「四季の星座の移り変わり」

(未来へ広がる サイエンス 3 より)

## 2 単元の目標

- (1) 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、太陽の様子、惑星と恒星、月や金星の運動と見え方を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。 [知識及び技能]
- (2) 太陽と恒星の動きについて、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽と恒星の動きについての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 太陽と恒星の動きに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。 [学びに向かう力、人間性等]

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、太陽の様子、惑星と恒星、月や金星の運動と見え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	①太陽と恒星の動きについて、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽と恒星の動きについての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	①太陽と恒星の動きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

## 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】地球の運動による太陽や星座の星がどのように動いているかを説明できる。

考えさせる問い

12星座とその星座が見られる時期の関係について、自分の考えをもとう。

バースデーラインの発表を通して

「考えさせる問い」に使う知識を「教える」

- ①光年(1天文単位) ②恒星の等級 ③太陽の特徴 ④天球  
⑤南中、南中高度 ⑥黄道 ⑦アステリズムと星座の違い(例外を除く)

考える

個 ○自分の誕生月の星座の特徴、見える時期見えない時期について調べる。

広げる

- 集団 ○個人で調べたことを発表し合い、12星座の規則性、共通点、相違点を検討する。  
○「地球の運動による太陽や星座の星がどのように動いているのか」について、グループで考えたことを全体で発表する。

深める

- 個 ○発表を受けて、分かったこと、分からなかったことの分析を行い、必要に応じ再調査をする。  
○白紙タイム(A5 サイズ)に取り組みせ、学習内容を反芻するとともに、次回以降の学習内容に繋げる下地とする。※白紙タイム:資料等を見ずに白紙に学びをアウトプットする時間

5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全6時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点
1 2	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><b>【めあて】地球から見える恒星の1日の動き(日周運動)について説明できるようになる。</b></p> <p>○天球上の恒星の見え方を時間経過や方角に着目させ仮説を立てる。</p> <p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○地球の地軸の傾き及び回転による天球上の恒星の動きを理解する。</p> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b></p> <p>○北半球における、天球上の見かけ上の動きをペアで説明し合う。</p> <p><b>【既習事項定着の確認(アウトプット)】</b></p> <p>○日周運動についてデジタルドリル・演習プリントで確認する。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <p>○1時間当たりの恒星の見え方について、1周が360°であることをヒントに、自分なりに説明を考え、ワークシートに記入する。</p> <p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○地球役や恒星役に抽出された生徒の動きを俯瞰的に見て体験的に捉える。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○自分が考えていた説明に不足していたことや新たに気付いたこと、発見したこと、理解が深まったことなどを最初に用意した説明に加え、ワークシートに記入する。</p> <p>○分かったこと、分からなかったことを整理し、学習を振り返る。</p>	<p>[知識・技能①] (プリント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・透明半球の扱いについて理解している。</li> <li>・北半球における自転の向きは、反時計回り(南半球の場合は時計回り)であることを理解している。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>(プリント、デジタルドリルの取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転について理解しようと進んで学習している。</li> </ul> <p>[思考・判断・表現①] (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転の向き、日本地図を用いてどのように説明すると東から西に星が動いて見えるかを考えている。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解したこと、分からないことを自ら捉えられている。</li> </ul> <p>※立体的に捉えづらい生徒には、【教わる・知る】において日本地図の縮小図を渡して、反時計回りに回りながら地図のどちら側から日の出となるかを再検討させる。</p>

【めあて】 次回のめあて「星座の星の動きを説明できるようになる」について事前調査する。

【教わる・知る】

- 黄道十二星座の種類を知る。
- 星座が88種類あることを理解する。
- アステリズムと星座が異なることも理解する。
- 北の空の恒星の見え方について理解する。

【理解の確認(アウトプット)】

- 分かったことの情報共有をする。

[知識・技能①](ワークシート)

・12の星座が1年を通して見え方が変わっていくことを理解している。

[思考・判断・表現①](観察・ワークシート)

・理解したこと(特に北の空)について説明できている。

【多様な考えを生む問い】12星座とその星座が見られる時期の関係について、自分の考えをもとう。

【考える・広げる・深める】

【個】

- 自分の誕生日の星座の星について調べる。  
例:見える時期、見えない時期、他
- その他、自分の誕生日の星座にまつわる情報を調べる。

【集団】

- 同じ星座の星を調べたグループで集まり(2~3人程度)、調べたことを共有する。
- 調べたことについて、科学的な見解として得られたものとそうではなかったものとに分ける。

【個】

- 最初に個人で調べた段階では気付かなかったこと、新たに発見できたこと、理解がより深まったことについてワークシートに追記する。

[思考・判断・表現①](観察・ワークシート)

・星座の星にまつわる情報について科学的な見解として得られたものとそうではないものの精査ができている。

※科学的/非科学的かの精査に困っている生徒には、天球上の動きに関連するかしないかで検討させる。

・調査したことを基に、なぜ調べた星座が自分の誕生日に実際に確認できないのかを考え始めている。

[主体的に学習に取り組む態度①](ワークシート)

・考えがより深まったことや新たな気付きを得たことについてさらに探究しようとしている。

【めあて】 星座の星の年間の動き(年周運動)について説明できる。

【多様な考えを生む問い】

12星座とその星座が見られる時期の関係について、自分の考えをもとう。

【考える・広げる・深める】

【個】

- 前時に調べた星座の星について発表するための準備及び調整をする。

[思考・判断・表現①](ワークシート)

・既習事項を基に、根拠を示しながら説明することができている。

<p>4</p>	<p><b>【集団】</b></p> <p>○担当した星座の異なるメンバーで班になり(できる限り12星座揃うようにする)、調べたことを一人ひとりが発表する。 ※今回は、おひつじ座、かに座、やぎ座は担当者がいない星座でした。</p> <p>○全ての星座の星に共通していることや相違点、疑問点について検討し、次に調べるための課題を設定する。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○集団の活動で出た課題について調べ、解決したことをワークシートに記入する。</p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○4人班になって、課題にしたこと、解決するために調べたこと、調べたことを通して考えたこと、分かったこと、分からなかったことを共有する。</p> <p>○班の代表が、課題となっていたこと、解決されたこと、解決までの過程などについて、共有したことをクラス全体で発表する。</p>	<p>※共通点や相違点を考える際には、「星の年周運動を理解する」というめあてを意識させ、課題を設定させる。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] (ワークシート)</p> <p>・多角的・多面的に捉えようとしている。</p>
<p>5</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】 星座の星の年間の動き(年周運動)について説明できる。</b></p> </div> <p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○星座の種類によらず、見える時期、見えない時期があるのは、太陽の位置、地球の自転・公転、星座の位置に関係していることを理解する。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○分かったこと、曖昧な部分、分からなかったこと(さらに理解を深めたいこと)を精査する。</p>	<p>[知識・技能](ワークシート)</p> <p>・星座の見える時期、見えない時期が太陽の位置に関連することを理解している。</p> <p>※太陽の位置や公転についての学びに着手できない生徒については、ヒントを与えて年周運動の学びに再度導く。</p>
<p>6</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】 日周運動と年周運動についての分かった、分からなかったの精査をして自己の課題を見付け解決を図る。</b></p> </div> <p><b>【既習事項定着の確認(アウトプット)】</b></p> <p>○日周運動や年周運動について自分が理解していることは何か、曖昧になっている箇所はどこかなどを分析する。</p>	<p>[知識・技能①](ワークシート)</p> <p>・日周運動、年周運動について、正確に理解し、説明できている。</p>

6	<p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <p>○分析をもとに、曖昧になっている点について、教科書やデジタルドリル・演習プリント等を使って、理解を確実にする。</p> <p>○白紙タイム(今回分かったことを白紙に記述する)に取り組む。</p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○4人班になり、自分が分かったこと、分かっていたことについてアウトプットする。</p> <p>○分かっていたことについて、他の班員から説明してもらい、理解を深める。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○新たに分かったことや今後さらに調べたい、理解したいことについてワークシートに記述する。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>(ワークシート・観察)</p> <p>・ワークシートに取り組み、分からないことを明確にし、解決を図ろうとしている。</p> <p>※書字に課題のある生徒には、大きめの白紙を用意・配布する。</p>
---	---	---

## 6 成果と課題

### 【成果】①【生徒による課題設定と解決に向けた学習活動を通じた学び】

- ・生徒はめあてに対して自ら課題を設定することができ、本校の校訓である「自己決定」にもつながる取組となった。
- ・課題を解決するためのアプローチを他者と相談しながら考え、前向きに活動する姿が見られた。
- ・個人では、めあてに向かって学習を進めることが難しい生徒でも、他者との協働を通して役割をもち、学びの機会を確保することができた。

### ②【学びのサイクル】

- ・「めあてに正対した課題の設定」→「課題解決を図る」のプロセスの中で、まずは、知識を活用しながら思考したり、さらにその思考に基づいて追調査や検証をしたりするといった探究的な学習を行えた。
- ・疑問点が生じた場合等においては、振り出しの調査から開始することも行った。これにより要不要をより明確化しながら、必要な情報を浮き彫りにすることができていた。
- ・「設定した課題への取組」→「演習」→「学びの整理」の順で学習することで、何が分かったか、曖昧か、分からなかったかの焦点化がより一層できている生徒が多かった。

### 【課題】①【学びの深め方】

- ・生徒の中には、めあてと関連の薄い内容を追究してしまう子や、逆にめあてを直接調べるだけで探究的な工夫が不足する子も見られた。
- ・学びを深めるためには、異なる視点から物事を捉えさせることが必要になる場面があるが、生徒が扱う情報の中には非科学的な内容や誤った情報も含まれており、こうした情報を適切に精査することに難しさを抱える(鵜呑みにしやすい)傾向も確認された。

### ②【演習に関する振り返り】

- ・一見するとシートを上手く使っている生徒でも、演習結果を分析すると、「何が曖昧なのか」「どこが分からないのか」を言語化できていない場合がある。
- ・演習問題を解く際に、何が問われているのか、どの知識を使うのかを見定める力に課題のある生徒も一定数いる。授業では「分かったつもり」でも点数が取れない原因の多くは、知識が曖昧なままだったり、理解できていない部分を洗い出せていなかったりするためである。だからこそ、学習内容を確実に整理し、必要な知識を授業時間内に活用できる力として定着させることが理想である。

## 7 ワークシート(ドキュメント)

### <ワークシートに対する考え方>

毎回、めあて→学習内容→演習→学びの整理という“学びのロードマップ”を示したシートを配布している(次頁参照)。授業の流れを示し、活動の見通しをもたせることで、生徒が安心して学習に取り組めるようにしている。

今回は、めあてを立てる際、「調べて終わり」にせず、複数の情報を組み合わせて説明することを重視した。年周運動を理解するために、太陽と地球、星座の位置関係、地球の自転・公転といった情報を出し合い、「どの順序で説明すると分かりやすいか」を生徒同士で精査しながら進めていった。必要に応じて追加で資料を探したり、一度立ち止まってまとめ方を修正したりする生徒の姿も見られた。学習後のデジタルドリル(またはプリント)では、“できた／できなかった”だけでなく、できなかった理由を言語化することに重点を置き、理解の定着を図った。その後の【学びの整理】では、「分からないことをどう解決するか」を自分で考える姿勢が育ってきている。

一方で、言語化の場面が多くなるため、予習時間の確保や生徒の負担増が課題として浮かび上がっている。今後は、教科担任がファシリテーターとして、限られた時間の中で「何を・どこまで・どのように取り組ませるか」の授業デザインの改良に伴うワークシートの改良を続けていく。

### Google ドキュメントを用いたワークシート(配布前)

○めあて  
地球から見た星座の星の年間の動き(年周運動)について説明できる。

前時の振り返りと追調査  
 発表  
 めあてに沿った課題の設定  
 【探求課題(任意)】南半球で同じめあてだったら・・・?

○流れ詳細【全2/2回】

【個人】

①バースデーラインに基づく星座について追調査する。  
②その後の集団における発表で何をどのように発表するかの検討をする。

【集団】

③情報共有・検討 第1クール(同じ星座担当で集合し、発表に向けた調整)  
④情報共有・検討 第2クール(発表、メモ)

【個人】

⑤各発表における発表における共通点、相違点、疑問点の洗い出し  
※科学的なものに限る。

【集団】

⑥情報共有・検討 第3クール ⑤についての精査

【個人】

⑦集団で出た課題に対する自己の見解をまとめる。必要に応じて調査する。  
⑧探求課題(任意)について検討する。→ 次回に繋げる。

○学習内容

①今までの調査内容+a

②、③ 発表内容の検討

④発表のメモ

⑤、⑥ ④に基づいた共通点、相違点、疑問点

⑥、⑦ 班で出た疑問点についてのアプローチ

○演習 デジタルドリルで学習したことを即時確認しよう！  
●eライブラリアドバンス 学校番号(10230896432) ミライシード  
☆演習した結果、自分の課題解決に至るまでのアプローチ

# 生徒の学びの例(配布後)

## 〇めあて

地球から見た星座の星の年周運動(年周運動)について説明できる。

- 前時の振り返りと過調査
- 発表
- めあてに沿った課題の設定
- 【探求課題(任意)】南半球で同じめあてだったら・・・?

## 〇流れ詳細【全2/2回】

【個人1】パスデーラインに基づく星座について過調査する。  
②その後の集団における発表で何をどのように発表するかを検討する。

### 【集団】

- ③情報共有・検討 第1クール(同じ星座担当で集合し、発表に向けた調整)
- ④情報共有・検討 第2クール(発表、メモ)

### 【個人】

- ⑤各発表における共通点、相違点、疑問点の洗い出し
- ※科学的なものに限る。

### 【集団】

- ⑥情報共有・検討 第3クール ⑤についての精査

### 【個人】

- ⑦集団で出た課題に対する自己の見解をまとめる。必要に応じて調査する。
- ⑧探求課題(任意)について検討する。→ 次回に繋げる。

## 〇学習内容

### ①今までの調査内容+α

#### 【双子座について】

- 見える時期は冬から春にかけての1月から3月上旬の夜8時から10時頃  
→冬の大きな三角形から天頂付近へ目を向けると、明るい2つの星(ポルクス、カストル)が目印になります
- 見えにくい時期は、春から夏にかけて(特に5月下旬～6月頃)  
→この時期は太陽が双子座のエリアにあるため、昼間の空にある太陽に隠れて見えません
- おうし座とへびつかい座の間に位置します。全天で30番目に大きい星座です。
- ポルクス:ふたご座で最も明るい星で、橙色の巨星。  
地球から約34光年離れており、太陽の約9倍の大きさがあります。系外惑星を持つことが知られています。
- カストル:ポルクスに次いで明るい星で、青白色の星に見えます。  
実際には、肉眼では4つの星に見えますが、6つの星からなる多重連星系であることが分かっています。
- 【双子座の著名人】

  - ・長澤まさみさん
  - ・広瀬すずさん
  - ・TWICEのツウィさん・ダヒョンさん
  - ・EXOのソホさん
  - ・鬼籠院翔さん
  - ・ちびまる子ちゃんの父ヒロシ

### ②、③ 発表内容の検討

- ・見える時期、見えない時期
- ・位置
- ・主な星
- ・双子座の著名人

### ④ 発表のメモ

牡牛座5月  
天体名:スバル

しし座LEO  
春  
夏～秋 太陽の光で隠れる  
しし座流星群11月17日

乙女座  
4月～6月 南の空  
夏見えない

てんびん座  
春～夏5～8  
11月～3月太陽が反対  
乙女とサソリの間

サソリ座  
5～8夏  
10～11 太陽の影響  
アンタレス 心臓

いて座  
夏～秋 南  
7月下旬午後10時 8月 午後8時  
冬 西の空日没 太陽  
著名人:ギャル曽根

水瓶座 英語:アクエリアス  
9～11 南  
見えにくい1～2 太陽の近くで見えない  
著名人:中条あやみ

うお座  
10～11 見える機が短い  
第4等級以下 光が弱いから見えづらい  
生まれたタイミングで太陽の位置にある星座が  
著名人

### ⑤、⑥ ②に基づいた共通点、相違点、疑問点

- 【共通点】

  - ・見えない理由は太陽の位置が関係している
  - ・星座には主な星座があり、一番光が強いものになっている

- ・生まれた日に太陽の方向にある星座が固い星座になる
- ・見える時期と方位が異なる
- ・一等星はいつも見える

#### 【特選点】

- ・1年間で、星座が隠れないようになっている
- ・星の距離が違うから、光の強さが違う
- ・星座に書かれる星の数

#### 【疑問点】

- ・流星群が星座とは関係のなさそうな時期に現れるのはなぜか

### ⑥、⑦ 算で出た疑問点についてのアプローチ

- 流星群の発生時期は「地球の軌道」によって決まり、名前はその時期の放射点の見かけの位置によって決まるため、必ずしもその星座が夜空の中心に 輝いている時期と一致するわけではない。
- 放射点に近い星の名前が流星群の名前になる

- 流星群とは、彗星が残した宇宙のチリが地球の大気圏に突入して燃え尽きることで発生する。
- チリは地球の軌道と交差するダストレイルを形成していて、地球がその中を通過する際に大量のチリが一斉に地球に降り注ぐことで流星群となる。

#### 【三大流星群】

- 1月のしぶんぎ座流星群
- 8月のペルセウス座流星群
- 12月のふたご座流星群

## 〇演習 デジタルドリルで学習したことを即時確認しよう!

●[ウイブリアド](#) / (シス 学校番号:10230896432)

[トライシード](#)

## 今演習した結果、自分の課題解決に至るまでのアプローチ

### 【課題】

- なぜ地球と星の動きで年周運動が理解できるのか
- なぜ昼間に星座が見れないのか
- なぜ季節が変わると星座も変わるのか

### 【アプローチ】

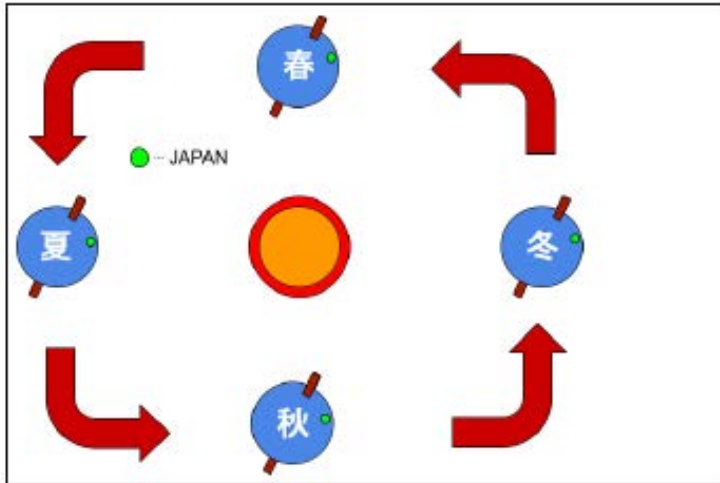
- 地球の自転、公転について知る
- 太陽が見る方位、時間帯について知る
- 星座が見える時期について知る
- フラットアースについて知る

### 【学びの整理】

〇わかったこと-理解したこと-解決したこと

- 星の年周運動とは、地球の自転と公転によって天体が1年をかけて天球上を一周するように見えることによる見せかけの運動のこと  
「見せかけ」というのは、天球上を天体が回っているようにみえるが、本来は地球の方が動いているため、見せかけて天体が運動している  
→地球平面みたい(見せかけの宇宙)
- 昼間に星が見れないのは、太陽が明るすぎることで星の微弱な光が目に見えないから
- 季節とともに星座が変わるのか  
→前提として星座と太陽は動かないものとする  
→例として夏の星には太陽の後ろにオリオン座があり、夜にはサソリ座のみ見える。逆に、冬の星には太陽の後ろにサソリ座があり、夜にはオリオン座のみ見える。  
つまり、一日中星座は見えないはずだが、地球の公転によって太陽が間に挟まることで見えなくなっているため、季節とともに変わっているように見えて、実は変わっていないことがわかる。

※次頁に続く



○わからなかったこと・疑問に思ったこと

- ① 平面図形から立体的な見方をするのが難しい。
- ② 自分も含めて南の空で観察できるという人が多かった。北の空では見ることができないのが。

○その他(演習等を通して気付いたこと、感想など)

- ① 平面図を立体的な見方をするためには・・・？  
 まずは、自分が地球上にいて南の空に立っていることを想定する。左が東、右が西という考え方を考える。その後、まずは自転の向きを考える。そうすると、星は、東から南の空を通過して西に移動する。その動きを考えると、1時間ごとの動きを辿ることができる。  
 しかし、年周運動については公転も考える必要がある。  
 地球の公転は、太陽の位置に対して反時計回りなので、星は東から西に動いて見えることがわかった。  
 ② 北の空について  
 そもそも、黄道十二星座という言葉から、太陽の通り道と共通する部分がある。  
 北の空では、太陽の観察が過ぎないように、南の空を見る必要があるとわかった。  
 このことから、自分の星座が太陽側にあるので自分の誕生日に見られないことにつながっていることがわかった。  
 感想  
 この学習は、地球の自転や公転が基本的な知識として必要だとわかった。そして、方角を常に気にしておく必要がある。  
 演習問題では、30日後やそれ以上の期間伍の数時間前や後が問われたりもするので、難しい。  
 これからも練習問題を解いて、もう少し理解しなければいけないとわかった。

### <生徒のワークシートの分析>

- 読み取れたこと
  - ・星座の見える/見えない時期
  - ・他者の発表のメモ
  - ・季節、方角、角度
  - ・公転による星の見え方の変化
- 読み取れないこと
  - ・南半球における恒星の見え方
  - ・流星群の放射点(輻射点)に関する情報
- 成果
  - ・疑問点を解消しようと学びを深めている
  - ・他者の学習内容を個人の学びに還元している
- 課題
  - ・流星群のように調べて学びを終えて、深められていない部分がある

### 授業を終えて 【ホンネの話】



第1章の学習では、地球が「2兆個もある」ともいわれる銀河の中のたった一つの天の川銀河に属し、さらにその中のたった一つの惑星にすぎないという、マクロな視点に触れました。続く第2章の日周運動・年周運動の学習では、視点はややミクロになったものの、“宇宙空間から地球を見る”という、別の難しさがありました。他にも、時間の流れ、距離(位置関係)、回転、方角、角度など、同時に追うべき情報量が多いこともあり、特に「地球の公転」と「太陽の位置」については、3章の月や金星について学ぶ上でも本時の授業のつながりを感じられる内容となっていくことが求められました。

生徒の探究や活動時間の確保が課題として残りましたが、試行錯誤を重ねる中で、生徒たちはそれぞれ異なる発想をたどりながらも、最終的には「地球が太陽の周りを公転することによって、恒星との位置関係が変化する」という同じ帰結点へと行き着くことができました。流動的かつ多様なアプローチでありながらも、確かな理解へと収束していく姿が見られた授業でした。

# 保健体育科 第2学年 「マット運動」

## 1 単元名(教材名)

保健体育科 主任教諭 中村 悠太

『器械運動』(マット運動)

## 2 単元の目標

- (1) 技の行い方の課題を解決するための合理的なポイントがあることを理解し、表現することができるようにする。 [知識及び技能]
- (2) 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うことができる。条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 [知識及び技能]
- (3) 選択した技の行い方や技の組合せ方について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えるときに、自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができるようにする。 [思考力、判断力、表現力等]
- (4) 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保することができるようにする。 [学びに向かう力、人間性等]

## 3 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識 ①技の行い方の課題を解決するための合理的なポイントがあることを理解することを言ったり、書き出したりしている。	技能 ①条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ②バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元するための動き方で基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。	①選択した技の行い方や技の組合せ方について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ②提供された練習方法から自己の課題に応じて技の習得に適した練習方向を選んでいる。	①器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとしている。 ②互いに助け合い教え合おうとしている。 ③一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ④健康・安全を確保しようとしている。

#### 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のため】器械運動を通して、自分に合った課題を見付け、挑戦することや仲間と高め合うことの喜びを味わう。

考えさせる  
問い

技ができるようになるために必要なことはなにか。(どのような練習方法が必要か。正しいフォームに近付ける体の使い方のポイントは何か。)

倒立前転の条件を満たすために必要な自分の課題と解決策は何か。

「考えさせる問い」  
に使う知識を  
「教える」

- ①基本の技
- ②立つことの原理
- ③コーディネーショントレーニング
- ④上達への道(自分自身の動きの確認から「課題・理由・改善策」を見付けるための流れ)
- ⑤スポーツリズムトレーニング

考える

個 倒立前転の条件を満たすために必要なことは何かを考えて練習をする。(どのような練習方法が必要か。正しいフォームに近づける体の使い方のポイントは何か。)

広げる

集団 個人で考えたことを4人～6人で話し合う。ワークシートに記述してグループ内で発表する。

深める

個 自身の課題の技に取り組む。共通ポイントカードや話し合いの内容、図解体育、クラスルーム内の資料、撮影した動画と比べながら自分に適した方法で練習を行う。

#### 5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全9時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点
予習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシート(→資料①)を使い、人間の立つという仕組みについて調べる。【関節、骨、筋肉の使い方の知識会得】</li> <li>○ラディアン、くの字、Sの字運動の動画を見ながらそれぞれを自宅で行う。【神経系へのアプローチ】</li> </ul> <p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○立つことの原理</li> <li>○コーディネーショントレーニング</li> </ul>	
1	<p>【めあて】器械運動の特性とその行い方、課題を解決するためのポイントを理解する。</p> <p>【教わる・知る】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各技のポイントと取り組むうえでつまずきやすいこと、課題に直面したときの解決方法を理解する。</li> <li>○器械運動の特性・取組時、安全に行うための留意点を知る。</li> <li>○技の名称とやり方を知る。</li> <li>○基本の技(前転・後転・倒立前転・側方倒立回転・バランス)を行う。</li> </ul>	<p>[知識①](ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器械運動の技の名称、ポイント、安全に取り組むための確認事項を知り、ワークシートに学んだことを入力している。</li> </ul>

1	<p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b></p> <p>○学習カードに記入をする。 ○動きながら確認をする。</p>	<p>[技能②](行動観察)</p> <p>・実際に基本的な技に取り組み、技を滑らかにして静止することができるようになっている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度④]</p> <p>・健康・安全を確保しようとしている。</p>
2 3 4 5	<div data-bbox="240 416 1410 589" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>【めあて】</b>自分自身の課題解決に適した練習方法を選択することができる。 器械運動に自主的に取り組み、仲間の演技を褒めたり、助け合ったりすることができる。</p> </div> <p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○汎用的な知識「何のために行うのか」 →体の動かし方の原理、呼吸やリズムの重要性を知る。</p> <p>○具体的な知識「どのように行うのか」 →正しいフォームやポイントを知る。</p> <p>○方法的な知識「どんな方法で行うのか」 →技を習得するための段階的な練習方法を知る。</p> <div data-bbox="236 936 1430 1099" style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>【多様な考えを生む問い】</b>見本と比較し、技(技能テスト選択課題)ができるようになるために必要なことは何か。(どのような練習方法が必要か。正しいフォームに近づける体の使い方のポイントは何か。)</p> </div> <p><b>【考える・広げる・知る】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <p>○技ができるようになるために必要なことは何か、個人で課題と適した方法について考えをもつ。(どのような練習方法が必要か。正しいフォームに近づける体の使い方のポイントは何か。)</p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○個人で考えたことを4人～6人で話し合う。 ○共通ポイントカードに記述して発表する。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○自身の課題の技に取り組む。共通カードや話し合いの内容、図解体育、クラスルーム内の資料、撮影した動画と比べながら自分に適した方法を改めて考え、自分に適したレベルや場所を選び、練習する。</p>	<p>[思考・判断・表現②](ワークシート・行動観察)</p> <p>・提供された練習方法から自己の課題に応じて技の習得に適した練習方法や体の使い方を工夫することができている。</p> <p>[思考・判断・表現①](ワークシート・行動観察)</p> <p>・選択した技の行い方や技の課題解決について、三つの知識とアドバイスカード(→資料③)を活用しながら成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度②④](行動観察)</p> <p>・互いに助け合い教え合おうとしている。</p> <p>・技の練習方法や練習場所において安全を確保しようとしている。</p>

6	<p>【めあて】倒立前転の条件を満たすために必要な課題を発見し、解決策を見付けることができる。</p>	
	<p>【理解の確認(アウトプット)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○立つうえでの関節の使い方から考えさせ、逆さまになったときの体の使い方を再確認する。</li> <li>○確認したことを全体で何名かが発表する。</li> </ul>	
	<p>【多様な考えを生む問い】倒立前転の条件を満たすために必要な自分の課題と解決策は何か。</p>	
	<p>【考える・広げる・深める】</p> <p>【個】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○倒立前転の条件を満たすために必要なことは何か(どのような練習方法が必要か。正しいフォームに近づける体の使い方のポイントは何か、など)、自分の考えをもつ。</li> </ul> <p>【集団】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で考えたことを4人～6人で話し合う。</li> <li>○ワークシートに記述してグループ内で発表する。</li> </ul> <p>【個】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○交流を通して広げた自身の課題と解決策を改めて考え、実際に技に取り組む。共通ポイントカードや話し合いの内容、図解体育、クラスルーム内の資料、撮影した動画と比べながら自分に適した方法で練習を行う。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現①](ワークシート・行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倒立前転の合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度①](行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な練習方法を試そうとしている。</li> </ul>
7 8	<p>【めあて】自己の演技をよく見せるために自分に合った練習方法を選択することができる。</p>	
	<p>【教わる・知る】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○演技構成の考え方や滑らかに演技をするために必要なことを知る。</li> <li>○通し練習とリハーサルを行う。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現②](ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の演技をよく見せるために自己の課題に応じて技の習得に適した練習方向を選ぶことができる。</li> </ul>
9	<p>技能テスト</p> <p>【めあて】練習の成果を発揮し、自分の考えた演技構成で自己の目標点数をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○制限時間30分で動画を撮影し、一番うまくいった試技動画をクラスルームに提出する。</li> </ul>	

9		[技能①②](提出動画・ワークシート) ・10点満点(倒立前転3点・選択肢 A2点・選択肢 B2点・バランス1点・滑らかさ2点) ※学習指導要領に沿って倒立(前転)の成功条件とする。
自主学習	○苦手意識が強い、「できない」生徒への確認と支援 ○授業中にワークシートの記入が終わらなかった生徒への支援 ○もっとやりたいという生徒への支援	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>単元中毎週水曜日 学習教室(体育館)で対応</b> </div>

## 6 成果と課題

【成果】①【教える】の時間に技能と思考のポイントを分け、技能面で必要な考え方、思考で課題解決に必要な考え方の視点を提示したことが多様な「個」の考えにつながり、「集団」での広がりにもつながった。

②【活動】うまくいかないときの対処法を教え、生徒がいつでもその対処法をクラスルームで確認できるようにし、自由進度学習を行わせたことにより、自身の課題解決のために必要な様々な方法を何度も試す時間の確保に繋がった。

【課題】【深める】倒立前転をメイン(主課題)としたが、様々な方法や仲間からの支援を受けても倒立そのものできない生徒がいた。恐怖心を取り除くためのスモールステップも行ったが、筋力不足やかなり強い恐怖心を抱く生徒には、教員が主体となって個別指導が必要だと感じた。

### 授業を終えて 【ホンネの話】

「勝ち負け」や「うまい・下手」ではなく「成長の過程」を大切にできる価値観をもたせられないかと考え、「自分に合った目標」を見付け、仲間と試行錯誤できる活動を設定しました。また、「できるようになろうとする姿勢」を育めるよう、互いに肯定的な声かけができるような環境についても意識しました。

ただ、マット運動では【個】→【集団】→【個】の流れが難しいと感じました。自由進度にしたため、生徒の課題に応じた練習内容(場所)で取り組む時間が多くなり、その分集団で話し合う時間が少なくなったりしました。この【個】→【集団】→【個】の流れは大切にしつつも、マット運動では流動的に【集団】→【個】や【個】→【個】→【集団】等でも良いと感じました。

自由進度学習自体は生徒からの肯定的な意見も多く、「徹底的に自分のやりたいことや課題を行えた」、「全体でやると自分を見られている気がして力を発揮できないから自分のペースでやれた」等の意見がありました。また、アドバイスをし合うことに難しさを抱える生徒については、アドバイス例を掲載した「アドバイスカード」を渡し、それを見ながら仲間へアドバイスをさせる工夫も試みました。各課題に対しての知識を整理し、それに見合った言葉かけや練習方法を提示したことで、マット運動自体が苦手な生徒やなんとなくできてしまう生徒に対しても、生徒同士で適切なアドバイスをすることができました。

体育の授業では運動量を確保する必要があります。そこに話合い活動も組み込まなければならないとなると、50分の中でのバランスに悩みます。基本的に40分は活動を行わせたい中で、話合いや情報共有の時間を見付けるためにはICTの活用や指示の伝達方法の工夫が必要だと感じました。



資料①ワークシート予習(一部)

<p>③バランスをとるために体のどこが動いているか</p>	<p>内耳ないじ(前庭覚ぜんていかく)、眼め(視覚)、足や関節(体性感覚)、筋肉(深部感覚)が協調して働き、それらの情報を脳が処理して筋肉を縮かくコントロールすることで姿勢を保ちます。重心のぶれが生じた場合、足首や足指を微調整したり、腕を揺ったりして、身体全体のバランスが維持される</p> <p><b>バランスに必要な3つの感覚</b></p>  <p>視覚      前庭覚      体性感覚</p>
<p>④ふつうに立つときと倒立のときの同じ点、違う点は何か。</p>	<p>▶共通点 体を支えること；どちらの状態でも、地面に対して体を支える必要がある。 バランス感覚；どちらの姿勢も、体のバランスを保つことが重要！</p> <p>▶相違点 重心の位置：ふつうの立ち方の重心は足にあります。 倒立：重心は手(腕)の方にある。</p>

資料②ワークシート(7回/9回)

めあて：つなぎを意識して練習する。手の先から足の先まで手本を見て真似をする。

取り組んだ技	技に応じたポイントやコツ(具体的な知識)	つまづいたときにどうしたらよいか(方法的な知識)
<p>側転 倒立前転 飛び前転</p>	<p>側転を見本と同じようにするためには、大きく手と足をつけること、起き上がるときに片方の腕でグッと押すことだと思います。倒立前転は、おへそを見て、肩→背中→おしりの順で床につけるのがポイント！飛び前転は、遠くに飛ぶこと。しかし、遠すぎると首が危ないので気をつけてやる。飛び前転は、少し高い壁を越して前転するイメージだから、ボールなどを使ってやると、とてもイメージしやすい！</p>	<p>「どうしても足が曲がってしまう」これを改善するために今回私が取り組んだことの1つ目は、壁倒立をしている状態で側転の一番真ん中の動作の、手と手とがついて足がまっすぐのびている状態を確認しました。そのあとにもう一度側転をしたら少し良くなりました！友達が「足を伸ばしてる感覚があるなら、それが片方に偏よっちゃってるんじゃない？」と言っていて私は「確かに…」と思いました。なので私は、足が曲がっている右足を意識してやってみてもうまくいきました。側転の手は左手がそのままついて、右手は手の向きを左に90°回転させることで、この右手に意味があり、これは起き上がるときに体を起こしやすくするための意味でした。それを知ってやってみたら、少しやりやすさと安定さが違いました。なにをしても足が上がらないので、歩いてから側転をするという形でやってみたら、少し上がりました。</p> <p>わからなくなったら、想像するだけでなく、道具などを使ってやってみることが大事！視覚的な練習が身につくと思った。</p>

※できたこと、できなかったことと関連させて書くこと

資料③アドバイスカード

技の習得段階	仲間にアドバイスをする時の視点	仲間への言葉かけのポイント
<p>1. 技の感覚がつかめていない</p>	<p>技の良い見本と比較して、汎用的な知識の視点を踏まえて、感覚づくりの運動などの方法的な知識についてアドバイスをする。</p>	<p>良い点を伝える。 例) ○○のために、感覚づくりの練習をしてみよう。 ：大きく揺れるゆりかごをして後転ができるようにしてみよう。など</p>
<p>2. できそうな気がする</p>	<p>技の途中な動きなど、技の個々の場面に注目して、汎用的な知識の視点を踏まえて「どのように」行うのか(具体的な知識)についてアドバイスをする。</p>	<p>局面(準備・主動作・終末)でそれぞれの動きのポイントを伝える。 例) 倒立の最初の場面でもっと速くに手を付いてみよう。など</p>
<p>3. たまたまできる</p>	<p>技の途中な動きなど、技の個々の場面に注目して、汎用的な知識の視点を踏まえて「どのように」行うのか(具体的な知識)についてアドバイスをする。</p>	<p>局面(準備・主動作・終末)でそれぞれの動きのポイントを伝える。 例) 倒立前転の倒れる時にもっとあごを引いてみよう。など</p>
<p>4. 意識すればできる</p>	<p>全体の動きの流れに注目して、アドバイスを</p>	<p>リズムやタイミング、バランスなどを表す言葉を伝える。 例) 手を突き放すタイミングをもう少し早くしてみよう。など</p>
<p>5. 自然とできる</p>	<p>指先や伸身、足先の姿など、技の完成度に注目してアドバイスをする。</p>	<p>視線、指先や脚の形などの細部の出来栄を伝える。 例) 膝が曲がっている。 他の技と組み合わせた時でもスムーズにできる? など</p>

●使い方：①仲間の技の習得段階を見極める ②仲間の困り感に沿った具体的なアドバイスをする。|

# 技術家庭科(家庭分野) 第2学年 私たちの衣生活 生活を豊かにするために

家庭科 教諭 土屋 知子

1 単元名 自分だけのトートバッグを製作しよう。

2編 私たちの衣生活 2章 生活を豊かにするために

1 作って楽しい布作品 トートバック 東京書籍「新しい技術家庭 家庭分野」(教科書 P.143)

## 2 単元の目標

- (1) 製作に適した材料や縫い方、用具の安全な取り扱い方について理解できる。 [知識及び技能]
- (2) 製作するトートバックに適した材料や縫い方について理解する。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製作する物に適した材料や縫い方について理解するとともに、用具(ミシン・ハサミ・針・アイロン等)を安全に取り扱い、適切な製作、点検及び調整等が適切にできる技能を身に付けている。	①生活を豊かにするための布を用いた物の製作について、問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、課題を解決する力を身に付けている。	①よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善することで、生活を豊かにするための布を用いた製作に工夫し創造しようとしている。

## 4 共通授業デザインによる教材の整理

【単元のめあて】使う相手の生活が豊かになるための工夫について自分の考えをもち、トートバッグを製作する。

考えさせる問い

使う相手に合わせたトートバッグのデザインを考えよう。

話し合いを通して

「考えさせる問い」  
に使う知識を  
「教える」

- ①生活が豊かになる製作とは何かを理解する。
- ②トートバックの生地・柄の選び方
- ③底布・持ちひもの工夫例
- ④使いやすいポケットの工夫例
- ⑤飾りやアップリケの工夫例

考える

個 市販のバックなどを見て、トートバック製作の工夫を考える。(アップリケや布、ひもや飾りの金具等を集める。)

広げる

集団 個人で考えたことを4人班で交流し、代表者がクラス発表をする。友人の考えやから参考になった点を、ワークシートに赤ペンで書き入れる。

深める

個 実際に、自分自身の作品製作に、工夫を取り入れる。

5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全5時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点等
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】</b>使う相手の生活が豊かになるトートバッグ製作の考え方について理解する。</p> </div> <p><b>【教わる・知る】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活が豊かになることとはどのようなことか、トートバッグ製作を具体例に挙げながら理解する。 (生活が豊かになる視点) <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの生活を快適にすること。</li> <li>・便利にする。</li> <li>・資源や環境に配慮する。</li> </ul> </li> <li>○1年次の被服実習(エプロン製作等)の学習で活かすことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・用具(ミシン・ハサミ・アイロン・縫い針等)の安全な取扱い方。</li> <li>・基礎技能(まち針の使い方、しつけの仕方)</li> <li>・製作手順</li> <li>・時間の見通し</li> <li>・目的に応じた縫い方・製作方法</li> </ul> </li> <li>○トートバッグ製作に向けた工夫の視点について、実物を紹介しながら確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・トートバックの生地・柄の選び方</li> <li>・底布・持ちひもの工夫例</li> <li>・使いやすいポケットの工夫例</li> <li>・飾りやアップリケの工夫例</li> </ul> </li> </ul>	<p>[知識・技能①](ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製作する物に適した材料や縫い方について理解している。</li> <li>・用具の安全な取り扱い方について理解している。</li> </ul>
予習(夏休みの宿題)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【多様な考えを生む問い】</b>使う相手に合わせたトートバッグを考える。</p> </div> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○誰がどのような場面で使用するトートバックを作製するのか、計画をたて、工夫しようと思う点をワークシート[手順2]に記入する。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現①](ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使う相手の生活を豊かにするために設定した課題の解決策を考えている。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度] (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や使用する部品等が工夫されているか。</li> <li>・使いやすさや用途に合った工夫がされているか。</li> </ul>

2	<p style="text-align: center;"><b>【めあて】夏休みに立てた計画に基づき、使う相手の生活が豊かになるトートバッグを製作する。</b></p> <p><b>【教わる・知る】</b> ○返却された夏休みの宿題を基に、工夫の視点や製作計画を見直す。</p> <p><b>【理解の確認(アウトプット)】</b> ○製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取り扱い方について確認する。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b> <b>【個】</b> ○夏休みに考えた計画を使って、今まで教わった被服技術(内ポケット・外ポケット・キーホルダー付け・リボンなどの装飾・アップリケ等)を基に、バック製作を行う。 →次回の[集団]の時間までに、ある程度形になった状態にしておく。</p>	<p>[知識・技能①](ワークシート・観察) ・被服の基礎技能を活かして、トートバック製作ができているか、確認する。</p> <p>[思考・判断・表現①](ワークシート) ・使う相手の生活を豊かにするために設定した課題の解決策を考え、製作に活かしている。</p>
自主学習	<p>○授業中に製作が進まなかった生徒の支援をする。</p> <p>○もっと工夫をしたい生徒・製作に時間がかかる工夫をしている生徒への支援をする。</p>	<p style="text-align: center;"><b>自主学習は、UT(ユニバタイム)で対応する。</b></p>
3 4	<p style="text-align: center;"><b>【めあて】友だちの考えを参考にして、トートバック製作に工夫する視点を広げる。</b></p> <p><b>【集団】</b> ○製作途中のトートバッグを見せ合いながら、想定している使う相手や相手に合わせた工夫について考えたことを4人グループで交流する。</p> <p>○4人グループの代表者が、クラス全体で発表する。(発表すること) ・誰がどのような場面で使用するためのバックか ・相手と場面に合わせた工夫について</p> <p>○参考になったことを、ワークシートに記入して、自分自身の作品製作に活かす。</p> <p><b>【教わる・知る】</b> ○発表を通して発見できた工夫について、教師のまとめを通して確認する。</p>	<p>[思考・判断・表現①](ワークシート・観察) ・使う相手の生活を豊かにするために設定した課題に対して、交流を通してよりよい解決策を見付け、製作につなげている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①](観察・ワークシート))</p> <p><b>【集団】の時間</b> ・交流の中心になっている生徒(A)、参加できずにいる生徒(C)の確認。その場での支援。</p> <p><b>【個】の時間</b> ・交流や発表を聞くことを通して参考にしたこと、考えたことをワークシート【手順2】に記入している。</p>

3 4	<p><b>【個】</b></p> <p>○工夫したいと思ったこと、訂正したいと思ったことをワークシート【手順2】に書く。</p> <p>○振り返りの「分かったこと」に記入し、ワークシートを提出する。</p>	<p>・記入できずにいる C 評価の生徒の発見と支援。</p>
自主学習	<p>○C 評価の生徒の「分からない・できない」程度・内容の確認と支援。</p> <p>○授業中にワークシートの記入が終わらなかった生徒の支援。</p>	<p>自主学習は、UT(ユニバタイム)で対応する。</p>
5	<p><b>【めあて】</b>友達の意見を自分の作品に生かして、より良い作品製作に取り組む。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <p>○他者の発表を聞いて、自分自身の作品製作に、工夫して付け加えたいと思ったことをワークシート【手順3】に書く。</p> <p>○加えたいと思った工夫を実際に製作に取り入れ、作品を完成させる。</p>	<p>[知識及び技能①]</p> <p>・考えた工夫を実現するために、被服の基礎技能を生かして、トートバック製作ができています。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] (作品・ワークシート)</p> <p>・課題の解決に主体的に取り組んでいる。</p> <p>・交流を通して改善につなげている。</p> <p>・布を用いた製作に工夫を加え完成させている。</p>
自主学習	<p>○C 評価の生徒の「分からない・できない」程度・内容の確認と支援</p> <p>○授業中にワークシートの記入が終わらなかった生徒の支援</p> <p>○もっと作品製作に工夫したい生徒への支援</p>	<p>自主学習は、UT(ユニバタイム)で対応する。</p>

## 6 成果と課題

- 【成果】**①【予習(夏休みの宿題)】の時間に見本を見せて、トートバック製作の工夫のイメージをつかませることと、【考える】の時間では、考えるための視点(布やひもやアップリケ等)を提示したことが、多様な【個】の考えにつながり、【集団】での広がりにもつながった。
- ②【活動】「どういう工夫をしたいのか」という考えがまとまった生徒は、作業にとりかかるが、技術がとまなわないうときには、教師が支援するようにする。
- ③【教材】生徒たちが、1 年次から、被服実習(ミシン・縫い針・アイロン等)を落ち着いて学習できる集団に育っていると、「底布付きのトートバック製作」をスムーズを進めることができ、さらにいろいろなデザインの工夫をするという視点を広げることができた。



【課題】【深める】トートバックに工夫を加える場面で、生徒一人ひとりがいろいろなアイデアを出してくる中で、それを一つ一つ支援するために、教師側の準備と力量、また多くの時間がかかってしまう。ユニバタイム(UT)」等の生徒が自主的に活動する時間を確保することも大切である。

授業を終えて  
【ホンネの話】

教科書に掲載されているトートバック製作の手順に加える形で、「誰のためにどのような場面で使用するバックなのか」考えさせた上で、「生活を豊かにするための布を用いた作品製作」に取り組みせました。第2学年は、第1学年から被服製作(エプロン)に積極的に取り組み、しつけのかけ方、端ミシンのかけ方等、基礎的な実技の技能を高めてきました。また、大変落ち着いた雰囲気の中で、被服実習を進めることができるクラスで、ハサミや縫い針、アイロン等の用具の安全に取扱うことができます。家庭分野の作品製作に対する意欲も高く、「自分自身で工夫して、より良いトートバック製作」に前向きに取り組むことができました。

授業時間内に、作業が終了できなかった生徒には、水曜日5校時の「ユニバタイム(UT)」の時間を有効に使い、生徒が積極的に楽しんで作品製作に取り組むことができました。ただ、自分の技術以上のアイデアが出てきて、それを作品に生かそうとしているものの、上手くできずに困っている生徒には、教師側からの支援が必要となります。「一人ひとりが、思い思いの作品を丁寧に作る」ということが、限られた時間内ではなかなか難しいと実感しています。

最低限の【個】の被服技能を身に付けていて、安全に作業する環境を保てる【集団】が十分に準備できていると、【集団】としての話し合いも充実し、【個】の工夫や意見を自分の作品に取り入れて、1ランク上の作品製作に取り組めるのだと実感できました。【集団】の活動において、生徒一人ひとりがしっかりと自分の考えを伝えようとする姿が見られ、積極的に様々な考えを交流する場面が見られました。【個】→【集団】→【個】の活動をすると、多少多くの授業時間が必要となりました。ただ、生徒一人ひとりが楽しんで工夫しながら、バック製作に取り組む姿を支援することは、教師としての私にとっても、有意義な楽しい時間となりましたことを、最後に記述しておきます。



生徒のワークシート【手順2】  
から

【手順】自分で、工夫した点を記入しよう。→夏休みの宿題(2学期始業式 8月26日(火)に提出。)

①レンガした内箱    ②アビールポイント    ③縫いの工夫    等、色付けして図に書き込みしよう。

7月16日(水)

アビールポイント

① 裏にボタンをつけて切り口の所に入れられるようにする。

② 外ポケット (小物入れ、ハンカチ、ティッシュ入れ)

③ 外ポケット (水筒、日傘)

④ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑤ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑥ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑦ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑧ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑨ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑩ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑪ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑫ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑬ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑭ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑮ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑯ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑰ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑱ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑲ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

⑳ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉑ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉒ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉓ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉔ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉕ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉖ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉗ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉘ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉙ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉚ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉛ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉜ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉝ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉞ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㉟ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊱ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊲ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊳ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊴ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊵ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊶ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊷ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊸ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊹ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

㊺ 底板 (厚紙に布をまいて作る)

【図・説明】工夫したことをまとめてみよう。

- ポケットを3つつけ整理整頓できるようにしたい。
- 表・裏で気分によってボタンなどを交換できるようにしたい。(表:シンプル、裏:可愛い)
- 作成テーマを意識して、アイロニングするよう工夫しました。
- 自分が日常生活でよく使う物を入れられたり、趣味に合いました。

8/6



【ワークシート】

葉田 〇〇

【ワークシート】 オリジナルバッグを工夫して作成しよう。

2年( )組( )番( )

① 誰が、どの場面で作ったオリジナルバッグを〇〇〇〇の工夫をして、作成しよう。

(例) ・ 自分、学校で授業中に作った。 ・ 誰かが授業中に作った。 ・ 友達からもらった。 ・ 〇〇〇〇の授業で、授業中に作った。 ・ 〇〇〇〇の授業で、授業中に作った。 ・ 〇〇〇〇の授業で、授業中に作った。

【図解①】

( )が( )の場面で作った。

そこで、( )の工夫をした。

② どのように工夫して、バッグ製作するの計画。

【材料①】 ① 布(2枚) ② コットン(2枚) ③ コットン(2枚) ④ コットン(2枚)

⑤ アイロン(1台) ⑥ 針(1本) ⑦ 糸(1本)

【材料②】 ・ 布(2枚) ・ コットン(2枚) ・ アイロン(1台) ・ 針(1本) ・ 糸(1本)

【手順①】 自分で、工夫した点を記入しよう。(自分の作品は「手順①」で記入しよう。)

(自分の作品は「手順①」で記入しよう。)

月 日

月 日



※ 【図解①】 工夫したことを多く書いてみよう。

【手順②】 布で縫って、両方のアイロンを縫って、お気に入りのことを記入しよう。

月 日

月 日



※ 【図解②】 布を縫って、両方のことを記入しよう。

【手順③】 両方のアイロンを縫って、自分の作品に、新しく工夫を加えよう。

月 日

月 日



※ 【図解③】 自分のオリジナルバッグを縫って、工夫したことを多く書いてみよう。



【ワークシート 生徒記入例】

**手順1-1** オリジナルバックを工夫して作成しよう。

2年( )組( )番( )

① 誰が、どの場所で使うオリジナルバックを〇〇〇の工夫をして、作成しよう。

(例) ・自分、家で授業用にしたい ・日曜日の朝に公園で、エコバックとして使いたい  
 ・中学校の行事の時、持ち帰りに使いたい 等

【作業シート】  
 ( 年 ) 月 ( 日 ) まで( 予定で) 作成しよう

そこで、( たいやん物が入り、衣類物を 取り出せる) 袋を工夫しよう。

② どのように工夫して、バック製作するの計画。

【製作要領】 ① 布( 2枚 ) ② フックボタン、③ フックボタン、④ フックボタン  
 ⑤ アイロン接着布( 2枚以上 )  
 【使ってもいい物】 ・型にあてた布のボタン等 ・レースやリボン等  
 ・裏布( 10センチ ) ( 2枚 ) ・裏布( 10センチ )

【手順1】自分で、工夫した点を記入しよう。→定評ある( 2年 朝陽女子 8月26日 ) 日に提出しよう。  
 ( 月 ) 日 ( 日 )

色紙か、紙を貼って、デザインしよう。  
 ( 月 ) 日 ( 日 )

【手順2】 友だちのアイディアを聞いて、自分のアイディアを聞いて、参考にしたいことをメモしよう。

( 月 ) 日 ( 日 )

( 月 ) 日 ( 日 )

【手順3】 友だちのアイディアを聞いて、自分の作品に、新しく工夫を加えよう。

( 月 ) 日 ( 日 )

( 月 ) 日 ( 日 )

ここも、開かれないようにしたい

裏側にも、とアプリケを作りたい。

内ポケットを縫って、外、内ポケットの間に、穴をあけて、

そ、そ、と頑丈に

※【振り返り】 自分のオリジナルバックが完成して、工夫したことをまとめよう。

- ・内ポケット作ったとこにそこにボタンを付けようと思った。
- ・ストラップを作り、人形をつける用に作りた。もう少し頑丈にしたいと破れて、おて取ってしまうので、と縫ってよかった。



↑ アプリケや飾りを取り付けた例



↑ トートバッグと同じ生地で作った例

【手順3】 友だちのアイディアを聞いて、自分の作品に、新しく工夫を加えよう。

( 月 ) 日 ( 日 )

( 月 ) 日 ( 日 )

ここも、開かれないようにしたい

裏側にも、とアプリケを作りたい。

内ポケットを縫って、外、内ポケットの間に、穴をあけて、

そ、そ、と頑丈に

※【振り返り】 自分のオリジナルバックが完成して、工夫したことをまとめよう。

- ・内ポケット作ったとこにそこにボタンを付けようと思った。
- ・ストラップを作り、人形をつける用に作りた。もう少し頑丈にしたいと破れて、おて取ってしまうので、と縫ってよかった。

1 単元名(教材名)

歌唱表現の特徴を感じ取って、『魔王』の魅力を探る

2 単元の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 [知識及び技能]
- (2) 音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽の良さや美しさを味わって聴く。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、音楽に対する感性を豊かにする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音楽の構造や詩の内容との関わりについて理解している。 ②音楽を形作っている要素、及びそれらに関わる記号などについて音楽における働きと関わらせて理解している。	①「魔王」の音楽を形づくっている要素(音色、旋律、速度、強弱)や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考えている。 ②曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。	①旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】歌唱表現の特徴を感じ取り、「魔王」の魅力について自分の考えをもつ。

考えさせる  
問い

曲想と音楽の構造との関わりを感じ取り、作曲者が「魔王」を通して何を伝えたかったのかを考えてみよう。

発表を  
通して

「考えさせる問い」  
に使う知識を  
「教える」

- ①音楽を形づくっている要素(既習事項の確認)
- ②物語の内容(日本語訳)
- ③音の高低の工夫
- ④前奏の表現
- ⑤登場人物による伴奏の変化

考える

個

曲全体を聴いて、曲想と音楽の構造との関わりを感じ取り、作曲者が「魔王」を通して、何を伝えたかったのかを考える。

広げる

集団

個人で考えたことを4人班で交流し、全体で発表する。

深める

個

交流から改めて気付いたことをメモする。

作曲者の思いを考える。

作曲者になったつもりで紹介文をつくり、ワークシートにまとめる。紹介する相手を考える。

5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全2時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点
予習	○日本語の詩の内容から、自分だったらどんな曲を作るかを音楽の要素を基に考え、ミライシードのオクリンクに記入する(提出)。	[主体的に学習に取り組む態度](ミライシード・オクリンク) ・音楽を形づくっている要素を基に、曲想を想像できているか。
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【めあて】曲想と音楽の構造や詩の内容との関わりについて考えることができる。</b></p> </div>	
	<p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○楽譜を見て日本語の歌詞の内容を知る。</p> <p>○日本語のCDを聴く。</p> <p>○音色や音の高低などに注目しながら「魔王」を鑑賞する。 (原語)</p>	<p>[知識①](観察・ワークシート)</p> <p>・曲想を感じ取り、感じ取った理由を、音色、音の高低、歌い方、旋律の違い等の視点から自分自身で捉えることができている。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【多様な考えを生む問い】音の高低が違うだけ？他にどんな工夫があるだろう。</b></p> </div>	
	<p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <p>○4人の登場人物がそれぞれどのような歌い方や旋律で表現されているのかを聴き取り、ワークシートに記入する。</p> <p>○「お父さん お父さん」と呼ぶ部分4か所の楽譜から歌い方や旋律の違いを読み取り、どのような心情を表しているのかを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>○登場人物の状況の変化を伝えるために、作曲者がどのように表現を工夫しているか登場人物ごとに抜き出して聴き、考えをワークシートにまとめる。</p> <p><b>【集団】</b></p> <p>○クラスルームの投稿欄を通して意見交換する。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○意見交換を通して新たに発見できたこと、深められたことなどをワークシートに書き足す。</p> <p><b>【振り返り】</b></p> <p>○登場人物による歌い方や旋律の違いに気付けたか。</p> <p>○詩の内容と音楽との関わり、心情の変化に気付けたか。</p>	<p>[思考・判断・表現①](ワークシート)</p> <p>・音色、旋律、速度、強弱を知覚し、その変化が詩や音楽とどのように関わっているのか、作曲者の意図はどこにあるのかについて、自分の考えをもつことができている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①](観察・ワークシート)</p> <p>・旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心をもち、活動に取り組もうとしている。</p> <p>※どのようにまとめたら良いかを迷っている生徒のために、見本になる生徒のワークシートをモニターで紹介する。</p>

【めあて】旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、曲に込められた作曲者の思いを探る。

【理解の確認(アウトプット)】

- 曲を鑑賞し、前時の学習を振り返る。前時の①ワークシートを参照、共有する。(今回は歌い方と旋律に焦点をおいて分析)

【多様な考えを生む問い】馬が走っている様子の他に伴奏にはどんな工夫があるだろう。

【教わる・知る】

- ピアノ伴奏の形がどこでどのように変化しているかに注目しながら聴く。
- モニターに映し出されるピアノの楽譜を見ながら聴く。
- 音型や強弱の違いという視点から聴く。

【考える・広げる・深める】

【個】

- 伴奏の形を変化させることで、作曲者は何を伝えたいのかを考え、ワークシートに記入する。

[考える視点]

- 前奏が表している情景について考える。(三連符)
- ピアノ伴奏が詩の内容や登場人物とどのように関わっているのかを考える。

【集団】

- クラスルームの投稿欄を通して意見交換をする。

[知識①](ワークシート)

- ・曲想を感じ取り、感じ取った理由をピアノ伴奏の形から自分自身で捉えることができている。

[思考・判断・表現①](ワークシート)

- ・音色、旋律、速度、強弱を知覚し、その変化が詩や音楽とどのように関わっているのか、作曲者の意図はどこにあるのかについて、自分の考えを書けている。

【多様な考えを生む問い】18歳の少年(シューベルト)は、「魔王」を通して何を伝えたいのか、家族に魅力を伝えよう。

【考える・広げる・深める】

【個】

- 曲全体を聴いて、曲想と音楽の構造との関わりを感じ取り、作曲者が「魔王」を通して何を伝えたかったのかを考え、ワークシートにまとめる。

[考える視点]

- 登場人物によって声の大きさや高さが違うだけなのか。
- 伴奏は馬が走っている様子を伝えているだけなのか。

【集団】

- 個人で考えたことを4人班で話し合う。
- ホワイトボードに記述して掲示・発表する。

[思考・判断・表現②](ワークシート)

- ・曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考えたことを表現することができる。

※集団活動では、目的意識をもった交流をし、考えを深められるよう注意を払う。

[主体的に学習に取り組む態度①]

(観察・ワークシート)

- ・旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら

	<p><b>【個】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○交流から改めて気付いたことをメモする。</li> <li>○家族の誰に対して伝えるかを考え、作曲者になったつもりで紹介文をつくり、ワークシートにまとめる。</li> </ul> <p><b>[書く視点]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校で過去に習っている家族には、より深いことを伝える。</li> <li>○この曲を知らない家族には、ワクワク感を引き出すように伝える。</li> </ul> <p><b>【振り返り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○紹介文の共有(クラスルーム)</li> <li>○今回の学習を通し、分かったこと、気付いたことをまとめる。</li> <li>○曲想と音楽との関わりに興味をもって音楽を聴くことができたか。</li> <li>○自分の考えをまとめることができたか。</li> <li>○友だちの考えを聴いて、自分とは違う考えに気付き、「魔王」の魅力について考えを深めることができたか。</li> <li>○歌う歌手によって、どんな違いがあったか。</li> </ul>	<p>主体的、協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を通して改めて気付いたことを粘り強く記述している。</li> <li>・紹介する相手によって、伝えたい内容を選びながら考えている。</li> </ul>
自主学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次の発展的課題に取り組む。</li> <li>・授業で聴いた人以外の歌手が歌っている「魔王」を聴いてみよう。歌い方にもどのような変化があるだろう。</li> <li>・ほかの作曲家(レーヴェ)の「魔王」を聴いてみよう。どのような表現の特徴があるだろう。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自主室で対応</div>

## 6 成果と課題

**【成果】**①【予習】の段階で、ミライシード内のオクリンクを共有しながら授業を進めたところ、音楽の要素をもとに楽曲を分析する基本を身に付けることができた。

②【多用な考えを生む問い】は、より深掘りするためのヒントを与えながら、ワークシートもモニターで紹介すると、ひらめきが広がる。発表させると時間がかかるが、モニターに映すことで、時間短縮にもなる。

③「作曲者はどんな工夫をして何を伝えたいのか」は一見難しい問いになったが、情報交換や発表を基に考えを広げることができた。

④家族への紹介文は、紹介する相手によって、様々な表現や考えが生まれた。

**【課題】**①「魔王」や「子ども」の人物像に焦点が行ってしまう生徒が見られ、音楽の表現に軌道修正しながら進める必要があった。

②歌唱表現に加え、伴奏の表現も詳しく取り組むと時間が大幅にかかってしまう。どちらかに重点を置くことが大切だが、生徒の興味・関心もそれぞれであるため、進め方を考える必要がある。

## 授業を終えて 【ホネの話】



「魔王」は何十年も前から教材として扱われています。その理由は、中学1年生が鑑賞する上で僅か3分余りの楽曲でありながらインパクトのあるピアノ伴奏、歌唱表現、ドラマチックな展開とたくさんの聴きどころがあるからです。そして鑑賞の授業が終わった後もピアノに向かい、前奏を弾いてみる生徒が絶えないくらい脳裏に残る楽曲です。その曲を題材で扱うと、毎年生徒からの新たな気付きが見られるのが、「魔王」の魅力でもあります。

今年度は、「作曲者のシューベルトは、聴き手に何を伝えたかったのだろう」というプラスαの問いをしてみました。様々な音楽の要素を組み合わせることで表現される人間のエネルギー。それが、音楽のエネルギーでもあります。深堀りをさせるほど、生徒からはいろいろな意見が出て楽しめるのですが、ただ、時間が足りなくなるのが難点です。しかし、年間を通してこのような授業を1回でも行うだけで、生徒の音楽の捉え方に変化が出てきます。また、「自分がシューベルトになったつもりで家族に魅力たっぷりの紹介文を書いてみよう」という課題には、音楽の要素を用いながら、考える姿がありました。「弟、妹にはドキドキ感が伝わるように、」「この曲を既に知っている兄弟や両親には、自分なりのより深い解釈を伝えるように、」等、一つの枠にとらわれない斬新なものもあり、若者の感受性の豊かさを感じました。子どもたちの感受する力が薄くなってきた現代社会で、やはり音楽は世界共通の人間の心を動かせる素晴らしいものであると改めて思いました。

## 生徒のワークシートから 抜粋～ワークシート②～

- 1—②伴奏の変化をつけることで、作曲者は何を伝えたいのか考えてみよう。
- 2 ①♪曲想と音楽の構造との関わりを感じ取り、作曲者が「魔王」を通して何を伝えたかったかを考えてみよう。

その場の雰囲気。迫力。

詩じゃその場の雰囲気が分からないけれど音楽をつけることによってその場の雰囲気が分かる。  
詩の雰囲気をリアルに表現したかった。

魔王の怖さを伝える。

音楽は、伴奏の形やリズムの違いでイメージを変えることができる。

人によって強弱を変えたり、音の高さを変えたりして、この曲の力強さと魔王の本当の怖さを伝えたかったんじゃないか。

この曲はセリフがなくても、音だけでも楽しめるくらい音の組み合わせを変えることで、人の心を表現している。

「音の組み合わせで心情の変化を表すことができる」という考えにすごく共感した。人によって、いろいろな心情が生まれるから、それを音楽で表現できるのはおもしろいと思った。

場面が変化している様子で音楽は言葉とかで気持ちを伝えることが多いと思っていたけれど、伴奏だけでも場面の切り替えや気持ちの変化がしっかりと来るように速さなどが違っていると思って、難しいけれど少しでも音の高さや強さなどが違うことで気持ちや、感じていることがガラッと変わるからそのメリハリ？を生かしながら登場人物の気持ちなどを伝えたいのではないのかな？と感じました。

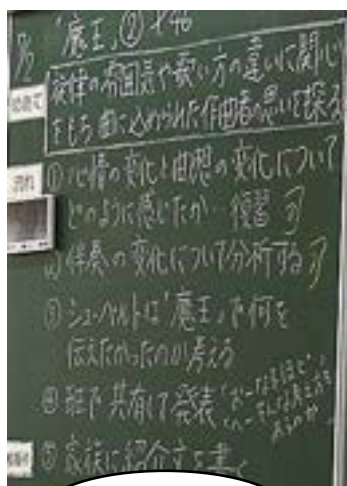
(4) 作品に込められた作曲者の思いを家の人に伝える紹介文を作ろう。【作曲者になったつもりで】

魔王という曲はヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ作詞、フランツ・シューベルトが作曲しました。魔王という曲には4人の登場人物がいます。一見怖いだけの楽曲に聞こえるけれど、人の心や、負の感情を音楽で表現していて、音の高低や伴奏の曲調が怖さを引き立てています。

また、子に注目して聞いたり、父に注目して聞いたりと注目する人を替えて聴いても様々な表現の違いがあっておもしろいと思います。私の注目ポイントは終盤の…続きは聴いてから。ぜひ聴いてください！！

元々、ゲーテが作っていた詩にシューベルトが曲をつけた「魔王」。魔王に襲われ怖がる子どもと怯える子どもを眺めて楽しむ魔王、そしていくら子どもが訴えかけても、気のせいだと分かってくれない父、以上3名の掛け合いに臨場感や迫力、その場の空気感などを旋律や伴奏の変化によって表現した、聞いていてドキドキするような曲になっています。他の方が作曲した魔王もあるそうなので、ぜひあわせて聴いてみてください。

この曲は、シューベルトが作曲した「魔王」という曲で、登場人物が父、子、魔王がいます。魔王は子をさらおうとして、子がだんだん焦り始めます。でも、父は気に留めません。子がついにさらわれそうになると、やっと父は焦り始めます。そういう場面を、一人の人が声で演じ分けて、音楽も、子と魔王とのやりとりになると音の強弱が激しくなったり、緊迫感が増したりします。作者は、人間の感情を音の変化でガラリと変えることができる音楽の魔法だと僕は思います。



授業スタイル

Web QU を  
基にした座席



ワークシートは  
クラスルーム

「歌唱表現の特徴を感じ取って、『魔王』の魅力を探る」

I めあて 曲想と音楽の構造や詩の内容との関わりについて考えることができる。  
( 月 日)

1 ♪登場人物の声の特徴を分析してみよう。(主)

語り手	
父	
子	
魔王	

教科書 P46~47 音の高さの変化

2—①「おとうさん」「おとうさん」と子が叫んでいる部分で音の高さがどのように変化しているのか、調べて書こう。(思)

②どのような心情を表しているのだろう。

3 ♪音楽の様子から、それぞれの登場人物の気持ちがどのように変化していったか、またどのように音楽の変化と結び付いているかを分析し、感じ取ったことを記入しよう。(思)

登場人物と歌詞の内容	音楽のどんなところから心情が読み取れたか(音色・旋律(音の高低)・強弱など)	音楽を聴いてイメージした心情の変化
① Mein fater! お父さん、魔王がいる、怖い! ② お父さん、魔王が何か言うよ! ③ お父さん、魔王の娘がいる! ④ お父さん、魔王が今、僕をつかんで連れて行っちゃう!		
① Main sohn ほうや、なぜ顔を隠すのか ② ほうや、それは狭霧じゃ ③ なあに、あれは枯葉のざわめきじゃ ④ ほうや、それは枯れた柳の幹じゃ		
① かわいいほうや、おいで。おもしろい遊びしよう。きれいな洋服もたくさんあるよ。 ② ほうや、一緒においでよ。娘と踊ってあそぼ。歌っておねんねもさしてあげるよ。 ③ Ich liebe dich かわいい子じゃのう。じたばたしてもさらっていくぞ		

Ⅱ めあて 旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、曲に込められた作曲者の思いを探る。( 月 日)

教科書 P49 伴奏の形の変化

1 伴奏の形がどこでどのように変化しているのかを確かめ、詩の内容や登場人物とどのように関わっているかを考えよう。(思)

① どこで、どのように変化していますか。

②作曲者は、何を伝えたいのか考えてみよう。

2ー ① ♪曲想と音楽の構造との関わりを感じ取り、作曲者が「魔王」を通して何を伝えたかったか考えてみよう。(思)

② ♪意見交換を通して、改めて気付いたことをメモしよう。(主)

3 ♪作品に込められた作曲者の思いを家の人に伝える紹介文を作ろう。(主)

# 特別支援教室 自立活動(個別指導) 第1学年 「文法体系の基礎の理解」

## 1 単元名(教材名)

特別支援教室 主任教諭 木村 敦子

- (1) 「文の組み立ての理解」
- (2) 「言葉の順番の整理」
- (3) 「聞き取り練習」

## 2 単元の目標

- (1) 自分の気持ちを正しく言語化したり、自ら援助要請したりできる。
- (2) 状況の理解を深め、優先順位を付けたり取捨選択したりすることができる。

【学習指導要領 自立活動6区分27項目から整理した課題】

### 2 心理的な安定

- (1) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

・指示を聞き取ったり記憶したりすることの不得意さがあり、学校生活において指示を正しく理解して行動することに困難が見られる。そのため、集団活動において他者と異なる行動が見られたり、授業中は集中できずに眠ってしまったりすることがある。

### 6 コミュニケーション

- (2) 言語の受容と表出に関すること。
- (3) 言語の形成と活用に関すること。

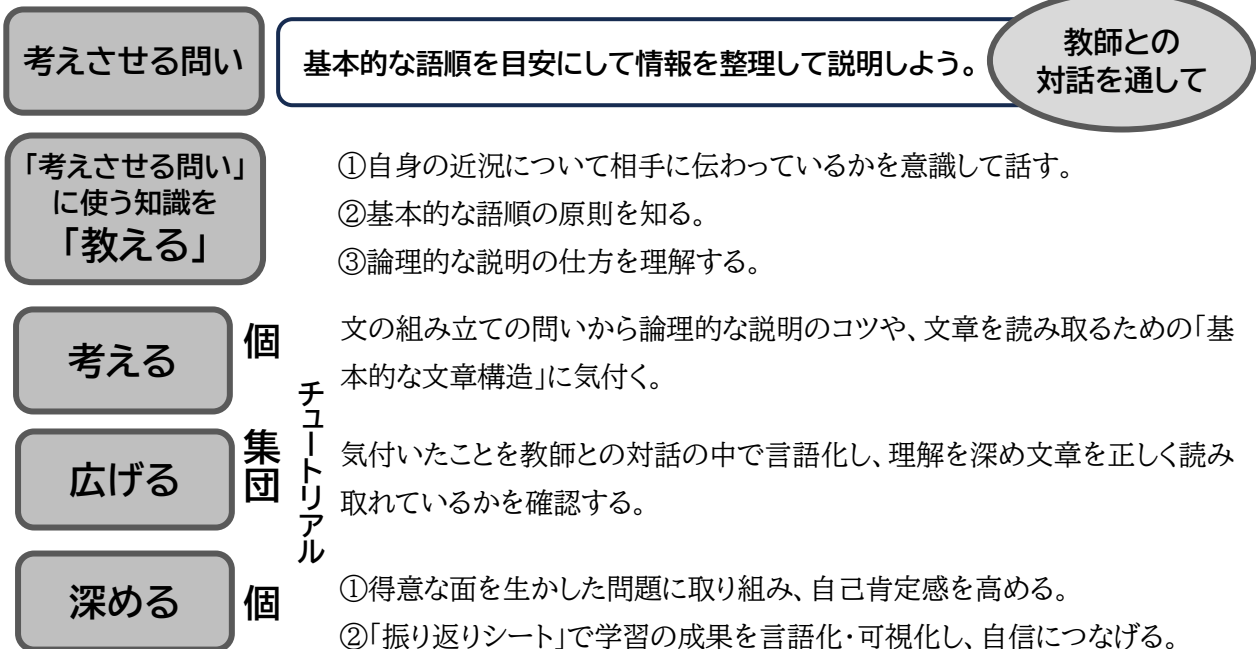
・教師との対話において、「誰が」がなく語順の整理もされておらず、伝わらない状況が見られる。簡単な漢字の読み方や言葉の意味に関する質問も多く、理解していないまま自己解決してしまったり、全く違って理解していても気付かなかったりする等、語彙力の不足や言語を操作する力の弱さから援助要請のスキルが高まっていないと考えられる。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「いつ・どこで・だれが・どうした」のプレートに沿って自身の近況を話すことができる。【コ(2)(3)】 ②情報を順序立てて伝えたり、相手と正確にやり取りしたりすることができる。【コ(2)(3)】	①語彙や正しい語順の学習により獲得した基礎的知識を活用して解答しようとしている。【心(3)コ(3)】	①語彙の概念に興味をもち、苦手なことにも立ち向かおうという意欲をもって考えている。【心(3)コ(3)】 ②自分の得意な面を活用することで困難を克服できるという経験を自信につなげて取り組んでいる。【心(3)】

### 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】論理的な説明の仕方に気付き、語彙の概念に興味をもって取り組む。



5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全1時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点
1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">【めあて】①基本的な語順の原則を知る。②語順を整理し論理的に話す力を身に付ける。</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">【多様な考えを生む問い】基本的な言葉の順番を理解して情報を整理して説明しよう。</p> <p><b>【教わる・知る】</b>                      ○「いつ・どこで・だれが・どうした」のプレートや板書を活用し、基本的な言葉の順番を意識して、自身の生活の状況や困っていることなどを話す。                      ○言葉の過不足や使い方の誤りに気づき、相手に意味が正確に伝わる文に直して話す。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b>  <b>【個】</b>                      ○ワークシートを通して、言葉を並び替えて意味の通る文を作る。  <b>【集団(チュートリアル)】</b>                      ○教師の説明を聞きながらワークシートを通して、相手に伝わりにくい言葉の順番がないか、見付け出す。                      ○相手に正確に伝わる言葉の順番について理解する。  <b>【個】</b>                      ○集団で学んだことを活かして、最初に話した自身の生活の状況や困っていることについて、相手に正確に伝わるように、内容や言葉の順番を整理しながら再び話し、学習の成果を確認する。                      ○振り返りシートに授業の感想を記入する。</p>	<p><b>【知識・技能】</b>(板書内容とアウトプット場面の観察)[コ(2)(3)]                      ・以下の3点について既習事項の定着がどの程度達成できているかを確認する。                      ①「いつ・どこで・だれが・どうした」のプレートを手掛かりに話そうとしている。                      ②言葉の順番を正しく並べかえて伝え直すことができる。                      ③教師と正確にやり取りしようとしている。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b>(ワークシート・観察)[心(3),コ(3)]                      ・以下の2点について語順の理解や自己効力感の高まりがどの程度進んでいるかを確認する。                      ①相手に正確に伝わる言葉の順番が理解できているかを確認する。                      ②言葉の意味に興味をもち、正確に伝わる言葉の順番ができたときの自分をイメージして主体的に取り組める。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>(ワークシート・観察)[心(3),コ(3)]                      ・以下の2点について確認する。                      ①今回学習したことが、自分の得意なこととなり、自信をもって取り組んでいる。                      ②授業で知ったことや学んだことを振り返りで言語化して次の授業への意欲を示している。</p>

## 6 成果と課題

【成果】①【教わる・知る】の場面で用いた「いつ・どこで・だれが・どうした」の視覚的プレートと板書による発言の可視化は、生徒が自身の発言の語順を客観的に確認する機会となり、基本的な文構造の気付きを促した。この初期の成功体験が、その後のワークシート学習における論理的に話したり聞き取ったりする力の意識的な取り組みにつながった。

②【教材】学習課題を「身近な話題を用いた視覚的支援」「自分の力で取り組む」「教師の説明を聞きながら取り組む」という3つのスモールステップに分けたことは、心理的な抵抗を大幅に軽減し、粘り強く課題に向き合う意欲を引き出す重要な手立てとなった。

【課題】①【深める】生徒の情緒的な安定と外部環境の調整にあった。授業が観察者のある状況下で行われたことで本人の緊張度が極端に高まり、自信につなげるべきワークシート学習の場面で、本来の力が発揮されず期待した学習効果が得られなかった。これは、生徒の「不安や気持ちが落ち着かない様子が見られる」という特性に対し、教師側が環境づくりや課題の提示方法において、当日の心理状態に合わせた柔軟な配慮が十分でなかったことを示唆する。

### 授業を終えて 【ホンネの話】



今回、安定した学習効果を継続的に生み出すための、生徒の状態を的確に見極めた「問いの工夫」や、限られた授業時間数の中で基礎から応用へと学習内容を効果的に展開していくための指導計画の改善が必要だと感じました。

また、観察という環境要因が、生徒の特性に拍車をかけ、まず「気持ちのコントロール」が最優先の課題となってしまいました。特に自信をつけさせるための活動で力が発揮できなかったことは、学習内容の難易度以前に環境が引き起こす情緒的負荷が学習の障壁になるという、「特別支援の現場の厳しさ」といえるでしょう。

生徒にとって、言語理解のスキルの獲得が、学校生活の「豊かさ」に直結していると考えています。生徒は主語のない会話や指示理解の困難さから、集団生活で不適應を起こし、それが情緒的不安定さを引き起こしている要因の一つでもあります。文法の「基本的な語順の原則」を丁寧に教え、生徒が「学習効果を実感」「スタート地点に立てた」と認識できたことは、指導の成果であり、引き続き学習を進める国語力や指示理解力の向上は、情緒の安定と自己肯定感を育むための不可欠なステップであると考えています。

# 特別支援教室 自立活動(小集団指導)第1～3学年 「感情対話ワーク」

## 1 単元名(教材名)

特別支援教室 主任教諭 中澤 幸彦

自分の気持ちを、表現しよう(感情対話ワーク)

## 2 単元の目標(指導目標)

### 【指導目標】

気持ちをコントロールし、自分の気持ちを適切な語句や表現を使って話せるようにする。

#### ・単元との関連性:

感情を言葉で表現できるようにすることで、自分の気持ちを客観的に整理できるようになる。

整理された感情は衝動的な言動を抑える力となり、結果として気持ちのコントロールにもつながる。

小集団での感情対話ワークを通して、他者の話を聞く中で自分の感情を見つめ直す機会が得られる。

### 【指導目標】

困ったときに援助を求められるようになる。周囲の状況に応じた言動がとれるようになる。

#### ・単元との関連性:

感情を言葉で表すことで、自分の困りごとを伝えやすくなり、援助要請の力が育つ。

仲間の話から「今どんな支援が必要か」を読み取る力を養うことで、周囲に応じた言動の調整にもつながる。

### 【指導目標】

場面や状況に応じた言動を調整できるようにする。

#### ・単元との関連性:

自分の感じ方や表現方法を状況に応じて切り替える力を育てる。感情対話カードを使うことで、出来事に対して「どんな表現がふさわしいか」を考える機会が生まれ、結果として場面に応じた適切な言動を選択する力を身に付けることができる。

### 【指導目標】

相手の気持ちを考えて行動できるように、自分の感情を理解・整理し、適切な言葉で表現できるようにする。

#### ・単元との関連性:

感情対話ワークを通して、自分の気持ちを言葉にすることと、仲間の感情を読み取ることの両方を体験する。他者の感情に耳を傾け、「自分ならどう感じるか」を考えることで、共感的理解が深まり、相手の気持ちを踏まえた行動選択ができるようになる。また、感情の整理や言語化を通して、自分の行動を冷静に見直す力も高まる。

## 【学習指導要領 自立活動6区分 27 項目から整理した課題】

### 2 心理的な安定

(1) 情緒の安定に関すること。

(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

- ・感情の浮き沈みが大きく、集団行動や学習活動への参加が困難な状況にあることから、自分に適した感情をコントロールする方法と防止方法を試させる。
- ・他者からの評価を極度に感じることで、起床や集団への参加に消極的になる状況にあることから、自分に適した参加について意欲的に取り組ませる。

### 3 人間関係の形成

(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

- ・一時的な感情が溢れ、冷静に自身の気持ちを整理することができない状況から、自分の気持ちを言語化したり、感情と事実を分けて書き出させたりして、自己理解を図らせる。

### 6 コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

(2) 言語の受容と表出に関すること。

- ・他者からの評価を極度に意識することから、人への基本的な信頼感がもてるように様々な価値観に触れさせて、個性への理解を深めさせる。
- ・自分の気持ちを表出させる語彙の少ない状況から、気持ちを表す語彙を増やし適切な表現をさせる。

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①感情の言語化を通して気持ちを整理し、出来事を説明できている。【コ(1)】 ②振り返りたい出来事を自ら設定し、自分の言葉で整理して話している。【心(1)人(3)】	①情を添えて自己の学びを振り返り、気付きを言葉で表している。【コ(1)(3)】 ②適切な感情語を用いて、事実と感情を関連付けたまとめを書いている。【人(3)】	① 気持ちの言語化に対して価値を理解し、指導目標を意識して取り組もうとしている。【心(3)】 ②仲間の話を聞き、相手の気持ちを理解しようとしている。【心(3)】 ③感情語を手がかりに出来事を振り返り、整理している。【人(3)】

## 4 共通授業デザインによる単元の整理

【単元のめあて】自分の出来事で抱いた感情を自分の言葉で説明したり、考えたりする。

考えさせる  
問い

**個別** 最近の印象に残っていることや指導目標(自分のめあて)に関連することを説明しよう。

**集団** 仲間の出来事を聞いて、同じような気持ちになった経験談を自分の言葉で説明しよう。

感情対話カード  
を使って表現  
する

「考えさせる問い」  
に使う知識を  
「教える」

- ①「出来事」と「気持ち」の分離の仕方
- ②感情を表す語彙、意味、使い方の習得
- ③自分の出来事を、選んだ感情語を使って説明する方法の理解
- ④仲間の話を聞き、その人の気持ちを推測しようとする姿勢の習得
- ⑤感情を言葉で表現できると、気持ちが整理され相手と分かり合えることの理解

考える

**個** 自分の生活を振り返り、5W1H で説明し、そのときの気持ちにふさわしい感情カードを選択するとともに、二次感情にまで気付かせる。

広げる

**集団** 考えたことを小集団で交流し、仲間の出来事を聞いてどんな気持ちだったかを感情カードから選択し、理解する。

深める

**個** 仲間の出来事を聞き、気持ちが分かったところで、その気持ちになった経験談を説明する。

5 学習活動・評価計画・単元の流れ(全8時間)

	主たる学習活動	評価する内容(評価方法) ※指導上の留意点
<p>1 3 個別授業</p>	<p><b>【めあて】 自分の状態に気付き、自分の気持ちを自分の言葉で説明できる。</b></p> <p>○挨拶を行い、姿勢・視線・体調を確認する。 ○振り返りシートに記入し、近況や困りごとを共有する。 ○本時の活動の流れを確認し、見通しをもって学習を始める。</p> <p><b>【多様な考えを生む問い】最近印象に残った出来事とそのときに抱いた気持ちを自分の言葉で説明してみよう。</b></p> <p><b>【教わる・知る】</b> ○最近の印象的な出来事や困りごとを、声かけカードを用いて思い出す。 ○自身が振り返りたい出来事を一つ選び、その内容を説明する。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b> <b>【個】</b> ○選んだ出来事の中で感じた気持ちを言語化する。 ○感情対話カードを活用し、自分の気持ちに合う言葉を選び、その理由を説明する。</p> <p><b>【集団】(教師との対話を通して)</b> ○選んだ感情語を使い、出来事と気持ちを結び付けて文章にまとめる。</p> <p><b>【個】</b> ○感情を添えて「どんな気付きがあったか」「今後どう生かすか」を記入する。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度](観察)[心(3)] ・学習に向かう気構えが感じられる。</p> <p>[知識・技能①](聞き取り)[コ(1)] ・近況報告の中で、出来事を時系列に沿って分かりやすく話している。 ・自分の体験を思い出し、話題の一つに絞って説明している。</p> <p>[知識・技能②](聞き取り)[心(1)人(3)] ・振り返りたい出来事を自ら設定し、自分の言葉で整理して話している。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①](観察)[心(3)] ・感情を表す語句を選び、口頭で説明しようとしている。(発話観察) ・感情の言語化を通して気持ちを整理し、出来事を説明できている。(観察)</p> <p>[思考・判断・表現①](振り返りシート)[コ(1)(3)] ・適切な感情語を用いて、事実と感情を関連づけたまとめを書いている。(振り返りシート)</p>
<p>4 小集団授業 ①</p>	<p><b>【めあて】①自分に起きた出来事を説明する中で、自分の気持ちに気付き、言葉で表すことができる。</b> <b>②仲間の出来事を聞き、そのときの気持ちを理解し、自分の体験談と重ねて自分の言葉で説明し直すことができる。</b></p>	

<p>4 小集団授業 ①</p>	<p>○あいさつ・体調確認を行い、安心して学習に参加できるようにする。</p> <p>○本時のめあてを確認し、これまで個別で行ってきた“感情対話カードでの振り返り”を想起する。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度②] (観察)[心(3)]</p> <p>・学習に向かう姿勢が整い、活動に安心して参加している。</p> <p>・個別学習の経験を思い出し、学習への目的意識をもっている。</p>
<p><b>【多様な考えを生む問い】仲間の出来事を聞いて、同じような気持ちになった経験談を自分の言葉で説明しよう。</b></p>		
<p><b>【教わる・知る】</b></p> <p>○気持ちを言葉で表すことにどんな価値や意味があるかを考える。</p> <p>○気持ちを言葉にすることが自分にとってどのように大切なかを理解する。</p> <p><b>【考える・広げる・深める】</b></p> <p><b>【個】</b></p> <p>○感情対話カードを用いて、最近の生活や印象に残った出来事を振り返り、説明できるように準備する。</p> <p><b>【集団】(小集団)</b></p> <p>○「出来事→気持ち→理由」を整理し、短い文で発表を行う。また、その他の第二次感情にも注目し、相互に質問をして仲間の感情に触れる。</p> <p><b>【個】</b></p> <p>○[集団]の活動で触れた仲間の感情に関するエピソードを自分の体験談を基に考える。</p> <p><b>【集団】(小集団)</b></p> <p>○エピソードを交流し、同じ感情を表す言葉でも、様々なエピソードで説明できることを理解する。</p> <p>○「感情カルタ」を行い、仲間の気持ちを推測する。また、相手の言葉から感情を読み取らせたり、感じ方の違いを感じさせたりする。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度②] (観察)[心(3)]</p> <p>・気持ちの言語化に対して価値を理解し、指導目標との繋がりを感じている。</p> <p>[知識・技能①](発言記録)[コ(1)]</p> <p>・感情語を使って自分の出来事を整理し、感情と関連付けて話している。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度②] (観察)[心(3)]</p> <p>・仲間の抱いた感情に関心をもち、気持ちに触れようとしている。</p> <p>・仲間の話を聞き、相手の気持ちを理解しようとしている。</p> <p>[知識・技能②](聞き取り)[心(1)人(3)]</p> <p>・仲間の感情に共感し、自分の出来事と照らし合わせて、自分の言葉で整理して話している。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度②] (観察)[心(3)]</p> <p>・仲間の話を聞き、相手の気持ちを理解しようとしている。</p>	
<p><b>【個】</b></p> <p>○本時のめあてを振り返り、感じたことを記入する。</p> <p>○気持ちを言葉にして伝えることや、仲間の気持ちを理解することについて、どう思ったか、感想を共有する。</p>	<p>[思考・判断・表現②](振り返りシート)[人(3)]</p> <p>・自己の学びを振り返り、感じたことや気づきを言葉で表している。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度③] (観察)[人(3)]</p> <p>・感情を表す語彙を手がかりに、自分の気持ちを整理しようとしている。</p>	

【めあて】 同じ出来事でも、人によって“感じ方”が違うことを理解しよう。

【多様な考えを生む問い】 仲間の出来事を聞いて、どんな気持ちなのかを考えよう。

②

【考える・広げる・深める】

【個】

○指定された感情対話カードに書かれている感情語に関する体験談を考える。

【集団】(小集団)

○同じ感情カードを選んだ仲間と体験談を伝え合い、意見交換する。

→同じ感情を表す言葉でも、体験談が異なることから「似ている気持ち」「少し違う気持ち」に気づく。

【個】

○ふだんあまり使わない感情語や知らない感情語を取り上げ、どのような場面で使うかを考える。

【集団】(小集団)

○個人で考えたことをグループで話し合い、取り上げた感情語について、似た感情や反対の感情を整理する。

○「感情当てゲーム」を行い、仲間の話す出来事から、そのときの感情を推測し、話した仲間が感じている感情と自分が推測した感情とを照らし合わせる。

【個】

○感じ方の違いについて、考えたことを発表する。

○「人の気持ちを考えるとはどういうことか」、自分の考えをまとめる。

[知識・技能①](発言記録)[コ(1)]

・感情対話カードをもとに、自分の出来事を説明しようとしている。  
・感情を手がかりに出来事を整理し、言葉で説明できている。(発言・ワークシート)

[思考・判断・表現①](観察・ワークシート)[コ(1)(3)]

・新しい感情語に関心をもち、使い方を考えている。  
・感情語を比較・分類しながら、気持ちの多様性に気付いている。

[主体的に学習に取り組む態度②]

(観察・発言記録)[心(3)]

・仲間の話を集中して聞き、相手の気持ちを推測しようとしている。(観察)  
・他者の出来事から感情を察し、共感的に理解する姿が見られる。

自主学習

○学習で扱った感情語や表現を、日常生活や在籍学級で意識して使えるように支援する。

○感情カードを見返し、似た出来事を家庭や学校生活の中から見付ける練習を行う。

○より多様な感情語や表現を調べてみたい生徒には、参考資料やダイアログカードなど語彙集の活用を促す。

在籍学級と日常生活で汎用

6 成果と課題

【成果】①【流れ】個別では近況や出来事を振り返る活動を通して「出来事」と「気持ち」を切り分け、【教える】の時間では感情語の意味や使い方を丁寧に提示したことで、自分の状態を捉えやすくなった。【考えさせる】の時間ではカードを使って気持ちを選び、理由を説明する視点を示したことにより、多様な「個」の気付きが生まれ、「集団」での活動でも互いの感じ方や考え方の違いが広がった。

②【活動】出来事→気持ち→理由という文章構成に沿って短い文で表現させたことで、考えの整理につながり、他の生徒の発言との比較もしやすかった。また、第二感情にも触れ、自分の感じ方の奥行きを考える姿が見られた。(なぜその感情語を選んだのか、理由をしっかりと説明させる)

③【教材】感情対話カードを段階的に扱い、基本感情から派生感情まで幅広く提示したことで、生徒

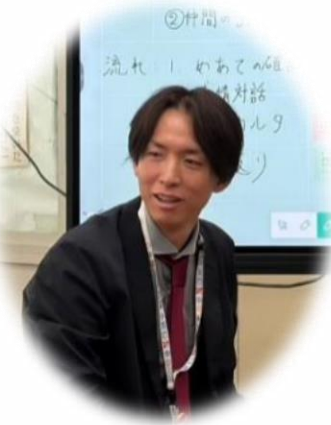
がふだん使わない語彙に触れられ、気持ちのバリエーションが広がった。小集団で仲間のお話を聞く活動と組み合わせたことで、「似ている気持ち」「少し違う気持ち」を比較しながら、他者理解と共感の視点をもたせることができた。

【課題】 単元の最後に「気持ちを言葉にすることの大切さ」や「感じ方の違い」に着目する場面を設けたが、生徒によっては感情語の理解や使い分けに差があり、語彙選択に時間がかかる場面があった。第二感情までは多くの生徒が気付けたものの、こだわりの強い生徒は一つの語を選ぶまでに迷いやすく、そもそもカードに書かれた意味自体が腑に落ちにくい生徒もいた。

一方で「もっと正確に気持ちを表したい」と発展的に捉える生徒もおり、細かな語彙の選択肢を加えることで対応できた。意味理解が曖昧な語については個別で補足し、理解を深められたが、小集団活動に入る前の準備段階に想定以上の時間を要した点が今後の改善点として挙がる。

### 授業を終えて 【ホンネの話】

「感情対話ワーク」では、個別で出来事と気持ちを整理する学習を積み重ね、小集団で仲間のお話を聞き合う活動へとつなげましたが、実際には生徒一人一人が出来事を思い出し、感情語を選び、その理由を考えるまでに時間を必要とする場面がありました。語彙の意味がつかみにくい生徒には、個別に教員が寄り添いながら具体的な場面を一緒に思い出したり、みんなで似た経験談を出し合っ「こういうときの気持ちのことを言うんだね」と自然に納得できるように支援したりすることで理解を深めました。仲間同士で自分の経験と照らし合わせながら言葉の意味を確かめる場面も多く、気持ちの使い分けが少しずつ実感を伴って身に付いていきました。また、より細かな気持ちを表したいと求める生徒には追加語彙で対応し、個別での支援経験を小集団での学びにつなげることができました。気持ちを言葉にする力はすぐに身に付くものではありませんが、こうした積み重ねの中で理解が深まり、今後も語彙支援や準備段階の工夫をさらに整え、生活場面で生かせる力へとつなげていきたいと考えています。



## 【資料】

生徒に提示するワークシート作成するにあたって、自立活動のめあてを生徒が理解できるように変換させる資料です。感情を言語化することは、自分にとってどんな価値があると捉えられるか選択させて、集団の中でも一人一人に適しためあてを設定させています。

### 【感情を言葉にすることの価値】

(自立活動3領域と対応させて、生徒に感情を言語で表すことの価値)

#### ①心理的な安定

- ・感情を言葉にすることで、自分の気持ちを客観的に整理できる。
- ・もよもよした気持ちを言葉に出すことで、心が落ち着きやすくなる。
- ・感情の正体に気付くことで、衝動的な行動を抑え、冷静に対処できるようになる。

#### ②人間関係の形成

- ・感情を表現することで、相手が自分を理解しやすくなり、信頼関係を築ける。
- ・他者の感情を聞き取る・推測する経験を通して、思いやりや共感の心が育つ。
- ・感情の違いを受け入れることで、人との関わり方の幅が広がる。

#### ③コミュニケーションの基礎

- ・感情を表す語彙を学び、状況に合った言葉で気持ちを伝える力を身に付ける。
- ・相手の発言や表情から感情を読み取ることで、より適切に応答できるようになる。

Q1.なぜ「気持ちを言葉にすること」を学ぶのか、自分のめあてとして合うものを選ぼう。 <生徒提示用>

#### 1. 自分のために（心理的な安定）

- 気持ちを言葉にすると、心の中が整理できる。
- つらいとき、どうしてつらいのかがわかってくる。
- 「言えた」だけで、少しホッとしたり、スッキリできたりする。
- 「今、どうしたいか」「何をしたらいいか」が自分で分かるようになり、行動を調整できる。

#### 2. 人との関係のために（人間関係の形成）

- 気持ちを言葉にすると、相手に自分のことが伝わりやすくなる。
- 「分かってもらえた」と思えると、人との関係が安心できる。
- 相手の話を聞くときも、「その気持ち分かるな」と思えるようになる。
- 相手の気持ちを想像できると、「今はどう動けばいいか」が分かるようになる。

#### 3. これからの自分の力になる（コミュニケーションの基礎）

- 言葉で気持ちを伝えることができると、トラブルのときに落ち着いて話せる。
- 自分の考えを説明したり、助けを求めたりできるようになる。
- 気持ちを整理できる人は、行動のしかたも自分で選べるようになる。
- 自分の気持ちに気づけると、あわてずに行動を選べるようになる。

## 【使用教材】

### ●教材①:感情対話カード/学びプロダクション 株式会社 rokuyou



感情カードは、1枚のカードに1つの感情とその意味が書かれている大きい40種類のカードのことです。ニーズカードとセットで活用することもあれば、感情カードのみを使用することもあります。感情カードは 8 色あり、心理学者ロバート・プルチックの定義する「プルチックの感情の輪」の基本感情ごとに色分けされています。感情カードに掲載した感情は、「〇〇な気持ち」「〇〇な出来事」などに紐づけられるような表現にしています。

### ●教材②:ダイアログカード/合同会社ファミリーコンパス



このカードは、自己や他者との対話をサポートする全世代向けダイアログ(対話)カードです。

「感情の奥に大切な願いがある」という NVC (非暴力コミュニケーション)の考えの元、年齢や性別、国籍を超えて誰もが大切にしたい願い(ニーズ)カードと感情カードが入っています。